

生研 ニュース

IIS NEWS
No.202
2024.7



●人間・社会系部門
教授

川口 健一

IIS
TODAY

本号の表紙を飾るのは、人間・社会系部門で活躍する川口健一教授です。撮影は自然豊かな柏キャンパスにあるホワイトライノⅡで行われました。生研の皆様には既にお馴染みかと思いますが、ホワイトライノⅡは川口先生のご専門である軽量テンセグリティ構造を本格的に採用した、世界に類を見ない斬新な建築です。

川口先生の研究領域は広範にわたり、曲面構造や展開構造、軽量膜構造の研究だけでなく、免震技術やシェルター、安全な天井構造に関する研究も含まれます。天井は建築の仕上げ材として位置付けられていますが、天井崩落による事故が日本のみならず世界中で頻繁に起きる中、先生は「構造家の仕事は建物を守るためにあるのではなく、人の命と幸せを守るためにある」とおっしゃり、積極的に天井とその安全性について研究されました。今ではその成果により、軽くて柔らかい安全な天井を推奨

する指針が示されています。これは基本的なことではありますが、単に美しい空間を創造するだけでなく、安全で人間に優しい建築を目指す上で欠かせない考え方です。

現在、川口先生は生きた樹木を使った建築という、まるでおとぎ話から飛び出してきたような研究を進められています。常に新しい分野に挑戦し、領域を越境していく川口先生の姿勢は、生研のスピリットを体現しています。最後に、この記事を執筆しているタイミングで、ホワイトライノⅡの第一回膜構造デザイン賞の受賞が決定しました。筆者も意匠設計者として協力する機会をいただきました。川口先生とその素晴らしい業績に関われたことに、心から感謝しております。

(広報室 今井 公太郎)

CONTENTS

REPORTS

- 3 「東大駒場リサーチキャンパス公開 2024」の開催
4 「東大駒場リサーチキャンパス公開 2024」広報室企画報告
5 「東大駒場リサーチキャンパス公開 2024」次世代育成オフィス（ONG）活動報告
6 2024 年度 生研同窓会総会・パーティーを開催
7 酒井 雄也 准教授、塚本 孝政 講師、松久 直司 准教授、築場 豊 技術専門員が文部科学大臣表彰を受賞

February

- 8 「大学人のスタートアップ講座 vol.2」を開催

March

- 9 第 110 回レアメタル研究会「非鉄金属の未来」の開催
10 国際シンポジウム「培養ニューロンの機能と未来」開催
11 RNUS Seminar 開催
12 UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award 2023 授賞式を開催
13 第 5 回未来志向射出成形技術シンポジウムを開催
14 第 1 回 HPC 産業応用拡大プロジェクトシンポジウム 開催
15 東京大学 生産技術研究所と平塚市が連携協力協定を締結

April

- 16 東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 社会連携研究部門
「データインフォームド都市・交通学」キックオフシンポジウムを開催
17 第 11 回中海海底工学フォーラム・ZERO 開催
18 「消滅可能性都市・銚子市を再生可能性都市へ」地域づくりの担い手が 140 名集まり、シンポジウム開催

May

- 19 令和 6 年度第 1 回生研サロン開催報告
20 ダイニングラボ活動報告

PRESS RELEASE

April

- 21 熱伝導の異方性が温度で逆転するシリコンナノ構造を実現 ——和装柄構造で半導体デバイスの進化に貢献——
21 軸索で結合させた大脳オルガノイドは複雑な神経活動を示す ——脳の発達と機能の解明に新たな手法を開発——
21 磁性半金属の特異な磁性をゲート電圧で変調することに成功 ——スピントロニクスへの応用展開に期待——
22 株式取引の外生的・内生的要因を推定する 効率的なアルゴリズムを開発
——COVID-19 流行初期における東証市場のダイナミクスを網羅的に可視化——

May

- 22 シリコン膜からの熱放射の倍増に成功 ——半導体デバイスの排熱問題の解決に期待——
22 「主鎖編集」により微生物で分解するプラスチック合成へ新たな道
——プロピレンと一酸化炭素と過酸化水素から合成——
23 電力系統の混雑緩和を実現するシステムのフィールド実証を開始
——2050 年カーボンニュートラルに向け、分散型エネルギーリソースの活用による配電用変電所の混雑緩和の実現性を検証——
23 斜面水動態に影響された不思議な植生景観を世界各地で見発見
——高解像度の地形・植生データを用いて植生分布の不均一性の要因を解析——
23 東京大学 生産技術研究所とエア・ウォーターによる「IoT センシング解析技術」社会連携研究部門が共同研究成果を発表
～「予測」「観察」技術により、食品ロス削減や農業生産性の向上に寄与～
24 シリコンナノ構造で環境熱から発電 ——トリリオンセンサ社会に貢献——

June

- 24 溶融したチタンから酸素濃度の低いチタンを直接製造する革新的技術の開発
——チタン製品の爆発的普及へと期待——

VISITS

PERSONNEL

AWARDS

SNAP SHOTS

INFORMATION

PROMENADE

THE PORTUGAL JAPAN

PLAZA

Activities of RNUS in Thailand

FRONTIER

生研の実験場としての建築保存

(人間・社会系部門 准教授 林 憲吾)

「東大駒場リサーチキャンパス公開2024」の開催

6月7日（金）・8日（土）の両日、東大駒場リサーチキャンパス公開2024が開催されました。今年度は、「未来の科学に一步近づく」をキャッチコピーとして、本所と本学 先端科学技術研究センターの各研究室等による研究室公開や講演会などの数多くのイベントを実施しました。

開催期間中は天候にも恵まれ、2日間で7,627人と前年よりも1,000人程度多い来場者を迎え入れました。各建物に来場者があふれ、駒場リサーチキャンパスは普段とは異なる盛況を呈していました。

公開初日に行った本所と先端科学技術研究センター合同のオープニングセレモニーは、全体テーマとして「持続可能な人間社会、生態系の実現に向けて」を掲げて開催しました。両所長による挨拶に続き、講演では本所 川添 善行 准教授が「ほんとうに「開かれたい」

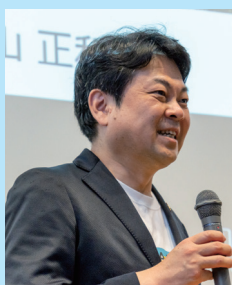
ですか？—多様性とデザイン—」、先端科学技術研究センター 森 章 教授が「生物多様性とは？その成り立ちと役割—生物多様性の多様性—」と題してそれぞれの研究活動にもとづく講演を行いました。このセレモニーは、オンライン同時配信も行い、多くの方に参加いただくことができました。

キャンパス内では本所だけでも108件の研究室・研究センター等の研究紹介・展示、26件のイベントが行われ、それぞれ幅広い年代・職業の来場者を集めていました。特に、理科教室などの体験型イベントが好評を博すとともに、両所合同実施となったスタンプラリーでは、スタンプが設置されたキャンパス各所を回って行く先々を見学する来場者の姿が見られました。

（総務課広報チーム）



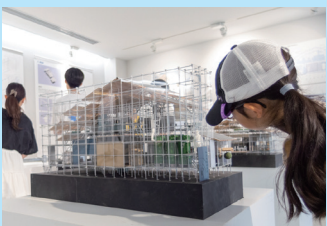
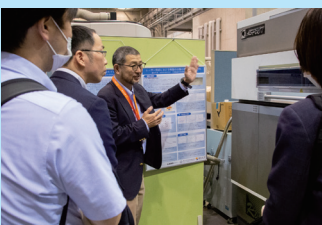
本所 年吉 洋 所長、先端科学技術研究センター 杉山 正和 所長による開会挨拶



川添准教授、森教授による講演



理科教室の様子（株式会社ニコン）



来場者を迎えて

「東大駒場リサーチキャンパス公開2024」広報室企画報告

6月7日（金）および6月8日（土）に開催した東大駒場リサーチキャンパス公開2024において、広報室では、「願いと実りのイチョウ～みんなの願いに、研究者が答えます～」および「ウェブマガジン『もしかする未来』の記事に投票&コメントでクリアファイルプレゼント！」を企画し、C棟1階ピロティにて実施した。

「願いと実りのイチョウ～みんなの願いに、研究者が答えます～」は、本所の各研究室が描き出す「もしかする未来」像を紹介し、各研究室への来訪誘致を目的とした企画である。本年度も、川口 健一 研究室が設計したテンセグリティ構造のオブジェに、研究室の情報と本所ロゴを表裏に印刷したカードを展示した。参加者には展示を鑑賞していただくとともに、研究者に解決してほしい願いをイチョウ型のメモ用紙に記載いただき、総数154の願いがオブジェを彩った。また、昨年同様、願いと実りのイチョウ展示が始まって6年の間に来場者から寄せられた願いから15の願いを選び、これに対して本所の16名の教員から寄せられたコメントを展示した。「お菓子がなる木がほしい」に対して「繊細な食感と味を作り出す『お菓子製造機』？」（本所 古川 亮 准教授）や、「どこでもドアがほしい」に対して「クルマの自動運転こそ、ほぼ『どこでもドア』？」（本所 大口 敬 教授）など、好奇心を掻き立てるコメントに、多くの来場者が足を止め、じっくり

読みこんでいた。

「ウェブマガジン『もしかする未来』の記事に投票&コメントでクリアファイルプレゼント！」は、今年3月に公開されたばかりの新規ウェブマガジン「もしかする未来 Case #UTokyo-IIS (<https://magazine.iis.u-tokyo.ac.jp/>)」の周知を目的とした企画である。本ウェブマガジンは、本所が提起するさまざまな「もしかする未来」像を社会に紹介し、期待や不安、自由コメントを閲覧者からいただくことで、本所と社会との対話の場となることを目指している。広報室企画ブースでは、教員のコメントの横にウェブマガジンの該当記事につながるQRコードをつけ、参加者にウェブマガジンへのアクセスを促し、投票やコメントをしていただいた方に本所オリジナルクリアファイルを贈呈した。「強くてしなやかな材料で、大地震の衝撃を吸収？」（本所 梅野 宜崇 教授）の記事に対しては「昔ながらの住居や歴史的な建造物を、景観を保ったまま補強するコンパクトな素材ができる？」、「体の外に作った神経回路が、外部メモリーに？」（本所 池内 与志穂 准教授）の記事に対しては「障害による記憶障害の人達にも適用されると素晴らしいです。また、忘れることとの重要性も研究が必要ですね」など、合計91件のコメントが寄せられた。

本企画にご協力いただきました皆さまに心から感謝を申し上げます。
（広報室）



ウェブマガジン企画の案内チラシ



願いと実りのイチョウに見入る来場者



教員からの好奇心を掻き立てるコメントに見入る来場者

「東大駒場リサーチキャンパス公開2024」 次世代育成オフィス（ONG）活動報告

6月7日（金）、8日（土）に開催された「東大駒場リサーチキャンパス公開2024」において、本所 次世代育成オフィス（ONG）では、所内ボランティアグループであるSNG（Scientists for the Next Generation!）と協同で、中学生・高校生のためのプログラム「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」、および連携企業・団体による体験型ブースの出展を行った。また、これらに加えて、小学生～高校生向けの「理科教室」に協力するなど、精力的に活動を行った。

「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」では、事前に申し込みいただいた中高生の「団体見学」として、2日間で過去最高となる53校 約2000名の参加があり、加えて、個人単位や少人数グループでの当日参加も多くあった。遠方からは、青森県や鳥取県から参加いただくなど、全国各地から集まり、大盛況となった。参加者は「見学おすすめマップ」をもとに自由に見学し、体験型学習なども行っていた。

また、連携企業・団体による体験型ブース「“STEAM”を体験してみよう」では、JX金属株式会社（JX金属）、東京地下鉄株式会社（東京メトロ）、日本航空株式会社（JAL）、日本精工株式会社（NSK）の連携企業四社、および一般社団法人日本トライボロジ学会の協力を得て、地下アトリウムにてブース展示を行った。工作や模型など体験型展示が多数用意され、小さな子どもから大人まで大変多くの参加があり、大賑わいとなった。

本所 岡部 徹 研究室の協力を得てJX金属と開催した理科教室「銅パーくんの銅なってるの？」では、電気・電子製品に欠かせない金属「銅」への理解を深める化学実験を行った。また、日本トライボロジ学会、埼玉工業大学 長谷 亜蘭 研究室と協力した理科教室「摩擦の科学×謎解きトライボロジアドベンチャー ～でこぼこ大魔王を倒して世界を救え！～」では、ペーパークラフトを使った摩擦の科学に触れることができ、参加者から「面白い！」との声が上がった。

参加者からのアンケートでは、「普段はあまり知ることのない研究の結果や研究過程、大学の雰囲気を体感でき、とても興味深い体験になった。」「貴重な研究室の中の様子や最前線を走っている方との交流ができ、自分の将来のプランを立てる上で非常に役に立った。」「素晴らしい機会をありがとう」といった感想が多かった。また、中高校生及び引率教員の大半が「以前より科学技術に関心を持つようになった」と回答するなど、全体を通して、このキャンパス公開での体験的な学びの機会を通して、学ぶことの楽しさと喜びを感じ、満足度の高い充実した時間を得たとの声が数多く寄せられた。

最後に、ご協力いただいた各研究室の皆さま、連携企業・団体の皆さま、SNG関係者に心より厚く感謝と御礼を申し上げる。

（次世代育成オフィス 室長・教授 大島 まり、
学術専門職員 上田 史恵）



体験型ブース（東京メトロ）



体験型ブース（NSK）



体験型ブース（JAL）



理科教室の様子（JX金属）



見学の様子（大内 隆成 研究室）



見学の様子（坂本 慎一 研究室）



見学の様子（巻 俊宏 研究室）



理科教室の様子（日本トライボロジ学会）

2024年度 生研同窓会総会・パーティーを開催

6月8日（土）、2024年度 生研同窓会総会・パーティーを開催しました。2004年の生研同窓会設立から20年を迎える記念すべき年の総会・パーティーに、多くの会員が集いました。

総会は、本所 An 棟コンベンションホールで行われました。坪山 幸太郎 幹事（本所 講師）が司会を担当し、浦 環 副会長（本学 名誉教授）の開会挨拶に続き、吉川 暢宏 幹事（本所 教授）から、2023年度事業報告、2024年度活動計画の提案があり、承認されました。宮崎 敏朗 幹事（本所 事務部長）から、2023年度収支に関する報告、2024年度予算案の説明があり、承認されました。目黒 公郎 幹事（本所 教授）から、海外支部（バングラデシュ）の新設並びに活動に関しての報告がありました。最後に、魚本 健人 会長（本学

名誉教授）の開会挨拶で、総会は終了しました。

An 棟ホワイエでの記念撮影後、An 棟レストランアールで開催されたパーティーは、総会同様、坪山 幹事の司会進行により、魚本会長・年吉 洋 幹事（本所 所長・教授）の挨拶に続き、吉田 靖 会員の乾杯でスタートしました。設立20年の節目の会ということもあり、久しぶりに参加した会員の姿もあり、各所で会話が盛り上がる様子が見られました。浦 副会長による今後の生研同窓会の活動に関するプレゼンテーションや新入会員の挨拶を経て、榊 裕之 会員（奈良国立大学機構理事長・本学 名誉教授）の開会挨拶で、パーティーは盛会裏に終了しました。

（生研同窓会事務局）



浦副会長による開会挨拶



吉川幹事による事業報告・活動計画



宮崎幹事による収支報告・予算説明



目黒幹事による活動報告



魚本会長による閉会挨拶



年吉所長によるパーティーでの開会挨拶



吉田会員による乾杯



榊会員による閉会挨拶



記念集合写真

酒井 雄也 准教授、塚本 孝政 講師、松久 直司 准教授、 築場 豊 技術専門員が文部科学大臣表彰を受賞

令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が発表され、酒井 雄也 准教授、塚本 孝政 講師、松久 直司 准教授が若手科学者賞を、築場 豊 技術専門員が研究支援賞を受賞しました。受賞内容は下記の通りです。おめでとうございます。(広報室)

表彰	氏名	所属・役職	業績名
若手科学者賞	酒井 雄也	本所 准教授	コンクリートがれきの循環活用のための研究
	研究内容：コンクリートはセメント、水、砂および砂利を混合して硬化させた材料であり、世界的に最も大量に使用されている建設材料です。しかし、セメントの製造における大量のCO ₂ の発生、コンクリート用の良質な砂の世界的な不足、循環利用のための実用的な方法の未確立、などの課題を有しています。本研究では上記の課題を解決するため、コンクリートがれきを粉砕して得られる粉を常温で圧縮成形する手法および廃木材粉と混合して加熱圧縮成形する手法により、建設材料として再生する技術を開発するとともに、その硬化メカニズムを提唱しました。		
	塚本 孝政	本所 講師	クラスター物質の新規合成技術および新規設計理論の研究
	研究内容：少数の金属原子から成るクラスター物質は、「無機の分子」とも呼べる興味深い物質群で、私たちは実験・理論の両面から当分野の開拓を目指しています。実験的な検討では、カプセル型高分子材料を用いたクラスターの基盤的合成手法を新たに開発し、その物理的・化学的性質の解明を実現しました。また、独自の理論モデルに基づいて、元素周期表と同様にクラスターを分類・探索できる「クラスターの周期表」の提唱や、球を超える対称性を持つ「超縮退クラスター」の理論的発見にも世界で初めて成功しています。本研究は、ナノ物質化学における新しい切り口での学理構築、ひいては既存の延長にない化学領域の確立に貢献すると期待されます。		
研究支援賞	松久 直司	本学 先端科学技術研究センター/ 本所 准教授	伸縮性電子材料とデバイス応用に関する研究
	研究内容：ゴムのような柔らかい材料のほとんどは電気をあまりよく流しませんでした。受賞研究では、柔らかく伸び縮みする電子材料を様々に開発し、それらを集積化することで伸び縮みするセンサやディスプレイなどの電子デバイスを実現してきました。柔らかい肌にも違和感なく装着できる次世代ウェアラブルデバイスや、人と一体化するようなヒューマンコンピュータインターフェース、ロボットの電子人工皮膚などへの応用が期待されます。		
研究支援賞	築場 豊	本所 技術専門員	固体核磁気共鳴法による材料の局所構造解析への貢献
	研究内容：固体核磁気共鳴法は、様々な固体材料に対して、対象元素と周囲との原子核スピン相互作用に注目して、短距離・中距離秩序の結合状態を調べる手法である。氏は、本法により多結晶・非晶質・高分子材料などの構造解析を行い、多くの先駆的研究に貢献した。従来測定・解析が困難であった材料に対しても、試料や測定法の改善を行い良好な局所構造解析に成功した。本研究は、本法の応用範囲を大きく広げ、材料工学の学術的社会的価値を高める意義を持つ。		



酒井准教授

受賞コメント

本研究は多くの先生方や学生の皆さんにサポートいただいて遂行したものです。この場をお借りしまして深く御礼を申し上げます。今後は本技術を用いて、コンクリートがれきを原料とした製品の実用化などを通じて社会に還元できるよう、引き続き研究に励んでまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



塚本講師

受賞コメント

このような栄誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。共同研究者の皆様、学生の皆様、これまで研究活動を支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。本所に研究室を立ち上げてからまだ間もないですが、今後も独自の技術と理論を軸として新奇なナノ物質の研究を推進し、より革新的で社会に貢献できる物質化学の開拓に尽力して参ります。



松久准教授

受賞コメント

このような素晴らしい賞を頂くことができ、大変嬉しく思っております。これまでにご推薦・サポート下さった先生方やスタッフの皆様誠に御礼申し上げます。生研の先輩方が築き上げてくださった素晴らしい研究環境を活かして、基礎から応用までどこを切り取っても面白いと思ってもらえるような、欲張りでもワクワクする研究を推進して行きたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願い致します。



築場技術専門員

受賞コメント

この度は名誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。1992年より本所へ奉職、2009年より該当研究に携わってきました。多くの本所諸先生に尽力をいただき、装置の導入、立上げより安定稼働までできるようになりました。物質・環境系部門(4部)だけでなく、学内外の共同研究先に恵まれ、優秀な大学院学生また研究者の皆さまと協同できた賜物です。ご恩返しできるよう、心新たに、技術職員の任に専心してまいります。

「大学人のスタートアップ講座 vol.2」を開催

2月16日（金）に、本学学生及び教職員を対象とした「大学人のスタートアップ講座」を、オンラインで開催した。

本講座は、2022年度に開催し好評を博したセミナーの第2弾として、引き続き本所 国際・産学連携室が主体となり実施した。起業の検討を始める第一歩として、学内規定や手続き、支援リソース、身近な起業経験者の体験談を交えた前回の内容に続き、今回は、スタートアップに投資するベンチャーキャピタルから講師を招き、教員・研究者にとっての起業の魅力や留意しなければならない点、教員・研究者に期待すること等、投資家の観点からのアドバイスをテーマとした。

当日は、国際・産学連携室 中埜 良昭 教授が司会を務め、本所 岡部 徹 所長の開講挨拶の後、数多くの大学発スタートアップを支援してこられた ANRI 株式会社 鮫島 昌弘 ジェネラルパートナーと、東京大学協創プラットフォーム開発株式会社（東大 IPC）長坂 秀樹 パートナーより、具体的な事例を交えてご講演いただいた。学術研究の成果を商業的な価値に変換するためには研究者がマインドセットを変えることが重要であり、また、多くの研究者が自身の技術を広範な分野に応用できると考えがちになる中、特に起業を志す初期段階では、特定の市場ニーズに集中する必要があること、さらに、研究者は全てを一人でこなそうとする傾向があり、成功するためには優れた経営チーム

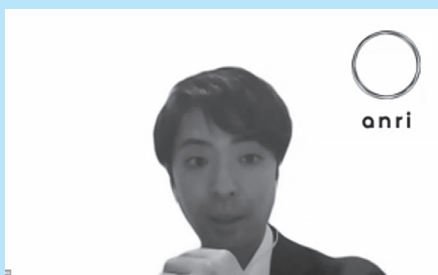
を組成することが鍵となること等が強調された。アカデミアの研究者による具体的な成功例・失敗例を例に挙げながら、大変刺激的なお話をいただいた。また、各々の学術研究の成果にどのような事業価値の可能性があるか、検討の初期段階から、経営人材についての相談を含め、遠慮することなくベンチャーキャピタルに気軽に相談してほしいという心強いアドバイスもいただいた。

質疑応答セッションでは、本所の教員や学生から活発に質問が飛び出し、講演者と共に有意義なディスカッションが行われた。とりわけ、皆が疑問に思いながらもなかなか聞くことのできない質問にも、講演者から丁寧にご回答いただくことができ、他の同種のものとは比べて、異彩を放つイベントとなった。

本講座は、当日の参加者と後日の所内限定配信で、のべ130名以上の視聴があり、参加者によるアンケート回答結果から、本講座が満足度の高い内容であったことが分かった。

最後に、貴重な時間を割いてご講演いただいた鮫島氏と長坂氏に対し、心より感謝の意を表するものである。両氏からの実践的かつ示唆に富んだご講演は、教職員や学生の起業への関心を高め、具体的なアクションへの契機となりうる貴重な機会となったことを願う。

（国際・産学連携室 次長・教授 合田 和生、
高度学術員 入江 由里子）



鮫島ジェネラルパートナーによる講演



長坂パートナーによる講演

**大学人の
スタートアップ講座
VOL.2 投資家からの視点**

2024年2月16日(金) 15時～17時

Zoomウェビナー開催
要事前登録

<https://x.gd/L9mDm>

対象：本学教職員、研究者、学生
※本年度は第2弾を開催します。

スタートアップに投資するベンチャーキャピタル(VC)より講師を招き、教員・研究者にとっての起業の魅力や、留意しなければならない点、起業に際してのアドバイスや、教員・研究者に期待することなど、投資家ならではの観点からご講演いただきます。

皆様、奮ってご参加ください。

問い合わせ先：生産技術研究所 国際・産学連携室
icr-info@is.u-tokyo.ac.jp

東京大学生産技術研究所
Institute of Industrial Science, The University of Tokyo

鮫島 昌弘 氏
ANRI株式会社
ジェネラルパートナー

長坂 秀樹 氏
東大IPC
パートナー
1st Round ディレクター

第110回レアメタル研究会「非鉄金属の未来」の開催

3月1日（金）に、本所 コンベンションホールにおいて、レアメタル研究会（第110回）が「非鉄金属の未来」と題して開催されました。会場に参加者を迎えて講演を行うとともに、その様子を Zoom ウェビナーおよび YouTube ライブを用いて配信し、オンラインからの参加も可能としたハイブリッド形式での開催となりました。

本所 岡部 徹 教授からの開会の挨拶の後、一般社団法人 日本メタル経済研究所 名井 肇 理事長、本学 大学院 工学系研究科 マテリアル工学専攻 岡部・大内研

究室の修士課程学生である 武 岑陽氏、鯨岡 由夏氏、山崎 智揮 氏、および本所 八木 俊介 准教授から講演が行われました。非鉄金属の関連企業を中心に産官学から、会場に 58 名、オンラインから 111 名の参加があり、活発な議論がなされました。

その後、研究交流会・意見交換会が開催され、非鉄金属業界の今後の課題について議論がなされ、大変盛況な会合となりました。

（持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
講師 大内 隆成）



開会の挨拶を行う岡部教授



講演を行う武氏



講演を行う鯨岡氏



講演を行う山崎氏



講演を行う八木准教授



講演会会場の様子



講演者の集合写真



講演会後の研究交流会・意見交換会の様子



研究交流会・意見交換会で挨拶を行う
JX 金属株式会社 谷 明人 常務執行役員



研究交流会・意見交換会で挨拶を行う
本所 大内 隆成 講師



研究交流会・意見交換会で挨拶を行う
本所 山中 俊治 特任教授・本学 特別教授

国際シンポジウム「培養ニューロンの機能と未来」開催

3月2日（土）に、SHIBUYA QWS スクランプルホールにおいて「培養ニューロンの機能と未来-Emerging Functionality of Cultured Neurons-」と題した一般向けのシンポジウムが開催された。体外で培養されたニューロン（神経細胞）に関する研究討論と知識共有を目的とし、オルガノイド、AI、微小回路構築、ロボット、リハビリ、デザインなどの多様な分野からそれぞれの専門家が世界中から集まり、参加者を巻き込んで議論を展開した。最初に、本学 Beyond AI 研究推進機構 萩谷 昌己 機構長からの挨拶で開会し、第一部では Beyond AI 研究推進機構 池内 与志穂 准教授、理化学研究所 坂口 秀哉 研究リーダー、東北大学 山本 英明 准教授、バルセロナ大学 Jordi Soriano 准教授 から神経組織や回路の構築に関する講演があり、その後パネルディスカッションが行われた。後半の第二部では MaxWell Biosystems から Urs Frey 氏

と Marie Obien 氏、Cortical Labs Brett Kagan 主任研究員、ジェノバ大学 Michela Chiappalone 准教授、ボルドー大学 Timothee Levi 教授、Beyond AI 研究推進機構 Miles Pennington 教授からニューロンの機能化や応用に関する講演があり、パネルディスカッションを行った。会場からは Slido 経由で多数の質問があがり、大変充実した質疑応答となった。渋谷での開催という地の利もあり、約 150 名の多様な聴講者が参加した。講演後に行われた懇談会では、培養ニューロン自体にとどまらず、分野の広がりや深まりについて活発な議論や意見交換が行われ、コミュニティを拡大することができた。前日の3月1日（金）には、本所 S 棟 1 階プレゼンテーションルームにて研究者向けの研究会も行い、こちらも大変盛況であった。

（物質・環境系部門 准教授 池内 与志穂）



シンポジウム参加者を交えての集合写真



登壇者集合写真



萩谷機構長（左）とドゥンキー智也氏（右）、
本学 博士課程・司会）の歓談の様子



会場の様子



前日の研究会の集合写真

RNUS Seminar 開催

3月8日（金）に、本所がタイ王国で運営する海外拠点である Regional Network office for Urban Safety (RNUS) が、第1回 RNUS セミナーを Asian Institute of Technology で開催した。本所 竹内 渉 教授が「Introduction to RNUS Office -Ongoing projects and future works-」、RNUS に常駐する 竹内 渉 研究室の Khin Myat Kyaw 助教が「Structural health monitoring with remote sensing techniques」と題して、それぞれ講演を行なった。参加した38名の研究者や学生の RNUS の活動に関する関心は高く、特に、ミャンマーの留学生から質疑応答があり、RNUS を通じた本所との共同研究や日本への留学などについて議論が交わされた。

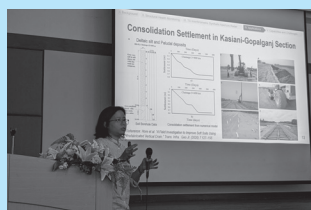
5月29日（水）には、第2回 RNUS セミナーを第1回目と同様 Asian Institute of Technology とオンラ

インで開催した。Dept. of Geography and Environment, Pabuna University of Science and Technology, バングラデシュの Md. Rahedul Islam 准教授が「Alternative Wetting and Drying (AWD) irrigation: A great tool to climate-smart agriculture」と題して、オンラインで講演した。また、本所 竹内 渉 研究室の Xuan Truong Trinh 特任研究員が「Monitoring of alternative wet and dry rice paddies in Thailand by integrating low-cost ground-based sensors and SAR observations to mitigate CH₄ emissions」と題して、対面で講演を行った。対面とオンラインで40名ほどの参加があり、ローコストセンサーを用いたメタンガス計測システム開発などについて活発な意見交換を行った。

（人間・社会系部門 教授 竹内 渉）



竹内教授による講演



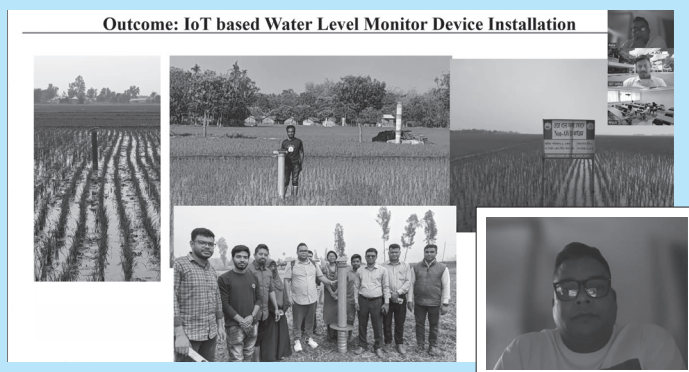
Khin 助教による講演



講演会場の様子



ミャンマーからの留学生と質疑応答の様子



Islam 准教授によるオンライン講演



Trinh 特任研究員による講演

UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award 2023 授賞式を開催

3月18日(月)、2023年度のUTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Awardの授賞式が執り行われました。このアワードは、産業界との共同研究、地域社会との連携活動や社会実装、国際的な共同研究や交流活動、社会と繋がる、または他の学術機関と繋がる基礎研究、社会や地球規模の課題の解決に資する研究など、「生研らしい」連携研究活動に主体的に取り組み、成果を上げた本所の大学院生を表彰し奨励することを目的に、2021年度に設置されました。

2023年度は、書類選考と面接審査を経て、最優秀賞1名を含む5名が受賞しました。

<最優秀賞>

Jianlu Zheng (郑 健璐)

(物質・環境系部門 杉原 加織 研究室 博士課程3年)

「Development of point-of-care diagnose tool based on the colorimetric polydiacetylene」

※以下姓アルファベット順

ドンキー 智也

(物質・環境系部門 池内 与志穂 研究室 博士課程2年)

「Development of multielectrode array technologies to enhance recording and usability of neural organoids」

Yuge Hou (侯 玉格)

(物質・環境系部門 杉原 加織 研究室 博士課程3年)

「Mechanism study of antimicrobial peptide synergistic

effects of LL-37 and HNP1」

今井 貴教

(人間・社会系部門 水谷 司 研究室 修士課程2年)

「車載型地中レーダーによる路面下立体損傷検知技術の開発と国土規模実装」

武藤 宝

(人間・社会系部門 川口 健一 研究室 博士課程3年)

「Navier 研究所 (Ecole des Ponts) における空気プレストレスト構造の載荷試験およびその他の研究活動」

授賞式は、本所 所長室にて行われ、国際・産学連携室 岡部 洋二 室長・教授の司会のもと、同室 坂本 慎一 室員・教授による審査報告ののち、本所 岡部 徹 所長から受賞者に賞状と盾を授与され、祝辞を述べられました。続いて各受賞者によるスピーチが行われ、研究活動で得たもの、苦労した点、今後の抱負等について、語りました。

3回目の実施となった2023年度は、2回目の応募で再度挑戦する意欲のある学生からの応募もありました。

引き続き、このアワードが、本所で学ぶ学生にとって、広い学術連携や社会との繋がりを持ち、大きな視野をもって研究活動をさらに深める励みと飛躍の契機となることを願います。

(国際・産学連携室 教授 坂本 慎一)



授賞式後の集合写真

前列左より、ドンキーさん、Houさん、Zhengさん、今井さん、武藤さん
後列左より、岡部(洋)教授、岡部所長、坂本教授

第5回 未来志向射出成形技術シンポジウムを開催

本所 社会連携研究部門「未来志向射出成形技術」は、射出成形技術およびその応用技術に関連企業と先導していくことを目的とし、設置期間を5年として2018年4月に設立された。その後2023年4月から2年間設置期間が延長され、2025年3月までが設置期間となっている。延長初年度の研究進捗を総括する目的として、第5回のシンポジウムが2024年3月19日（火）に開催された。開催方式は、本所 An 棟コンベンションホールとオンライン（Zoom）のハイブリッド形式である。ハイブリッド開催にあたっては本所 映像技術室に協力いただいた。

シンポジウムは本所 岡部 徹 所長の開会挨拶に始まり、特別講演として、東レエンジニアリングDソリューションズ（東レ EDS）株式会社 代表取締役社長の中野 亮 様から「樹脂成形CAEの現状と新たな展開」、東洋機械金属株式会社 基盤技術開発部 下楠 蘭 壮 様から「環境負荷低減に寄与する射出成形技術の探究」についてご講演いただいた。その後、本部門 梶原 優介 特任教授が「射出成形を利用した金属と樹脂の直接接

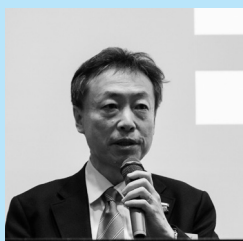
合技術－最新研究成果の報告」、本学 横井 秀俊 名誉教授が「射出成形現象の可視化・実験解析－最新研究成果の報告」について総括講演を行った。加えて、本部門 龍野 道宏 特任講師が「射出成形可塑化過程の可視化解析と樹脂温度分布計測」、本所 木村 文信 助教が「型温特殊制御を適用したPP-3I成形接合の界面評価」について最先端の研究講演を行った。会場の来場者、オンライン聴講者を合わせると参加者は229名を数え、質疑応答も大変盛り上がったシンポジウムとなった。シンポジウム後はAn 棟2階のホワイエにて懇談会を開催し、参加者が親交を深めつつ関連分野について議論を行った。

本社会連携研究部門は今年度末までとなっており、2025年3月18日（火）に最終総括となる第6回シンポジウムを開催予定である。少し先の話となるが、ぜひともご参加いただきたい。

（未来志向射出成形技術社会連携研究部門
特任教授 梶原 優介）



岡部所長による開会の挨拶



東レ EDS 株中野様の特別講演



東洋機械金属株下楠様の特別講演



コンベンションホール会場の様子



梶原特任教授の総括講演



横井名誉教授の総括講演



龍野特任講師の研究講演



木村助教の研究講演



懇談会の様子

第1回 HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウム 開催

3月21日（木）に、2023年度から3年間実施する、文部科学省のプロジェクトである『富岳』成果創出加速プログラム「AIの活用によるHPCの産業応用の飛躍的な拡大と次世代計算基盤の構築」*¹に関する第1回HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウムを、本所 コンベンションホール、および、Webexウェビナーによるハイブリッド形式にて開催した。民間企業99社からの参加者を含め、251名（含、現地参加46名）の方々にご参加いただき、盛会裡に終了した。

このシンポジウムでは、産業界のユーザを含む13名の方に講演いただき、プロジェクトの最新の成果を報告し、それを踏まえて、HPCとAIを活用したものづくりシミュレーションについて議論した。また、こ

れらの講演を踏まえて、最後のパネルディスカッションでは、産業界の方々を登壇者に迎え、「AIを利用したものづくりと今後の展開」と題し、HPCを利用した実証研究成果の実用化に対する課題やAI・データ科学を活用したものづくりシミュレーション技術の研究開発の現状について共有し、ものづくり分野における、将来のAIを利用したシミュレーションについての展望とそれを実現するための課題についての意見交換を行った。

*¹: HPC (High Performance Computing)

（革新的シミュレーション研究センター
教授 長谷川 洋介）



本所 加藤 千幸 教授による講演の様子



本所 長谷川 洋介 教授による講演の様子



質疑応答の様子



パネルディスカッションの様子

東京大学 生産技術研究所と平塚市が連携協力協定を締結

本所 林 昌奎 教授の研究グループは、本学の平塚沖総合実験タワーを含む平塚の港湾、周辺海域を活用し海面観測や波力発電開発等の研究活動を行っており、これら海洋環境工学に関連する技術開発や人材育成を推進するため、3月25日（月）に、新たに平塚市と連携協力協定を締結しました。

本所は、これまで平塚市（落合 克宏 市長）と連携して、海洋活用技術の開発に協力してきました。具体的には、林研究室が平成30年10月に採択された環境省委託事業である平塚波力発電所の実証事業や水中モニタリングの技術開発などを推進してきました。これらの事業は脱炭素技術のさらなる開発シーズを生み出すなど、新たな研究成果に結びついています。

（機械・生体系部門 教授 林 昌奎）

○協定の目的

本所及び平塚市の密接な連携と協力の下、海洋活用技術の研究開発を推進するとともに、新産業創出、人材育成等に寄与することです。

○協定の背景

平塚市と本所は、平成31年3月に最初の連携協力協定を締結して、環境省委託事業である平塚波力発電所の実証事業や水中モニタリングの技術開発などを協同して推進してきました。これらの事業は脱炭素技術のさらなる開発シーズを生み出すなど、新たな研究成果に結びついています。今後も平塚沖総合実験タワーを含む平塚の港湾、周辺海域を活用して、海面観測や波力発電開発等の研究活動を行うとともに、これら海洋環境工学に関連する技術開発や人材育成を推進するため、新たな連携協力協定を締結します。

○連携協力事項

- ・海洋活用技術の研究開発
- ・海洋再生可能エネルギー及び海中観測実装に係る実証実験
- ・再生可能エネルギーを活用した新産業創出及びそれを支えるものづくり技術の高度化
- ・海洋再生可能エネルギーに関連した人材の育成
- ・実証実験の公開等アウトリーチ活動



左から、平塚市 落合市長、本所 岡部 徹 所長

東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 社会連携研究部門 「データインフォームド都市・交通学」キックオフシンポジウムを開催

4月1日(月)、本学と阪急阪神ホールディングス株式会社は、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構に、社会連携研究部門「データインフォームド都市・交通学」を設置しました。本研究部門は、近年蓄積され利用可能になってきた交通や都市に関わるデータに基づいて、本学の多様な研究者と企業の実務者の協働により、持続可能な都市・交通に関する分野横断的かつ実践的なデータ分析／活用方法と知識体系を構築することを目的としています。

研究の開始にあたり4月23日(火)に第一ホテル東京にて、キックオフシンポジウムを東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構主催、本所後援のもと開催しました。第一部のキックオフセレモニーでは、本学 藤井 輝夫 総長(代読 本研究部門 大口 敬 特任教授)、阪急阪神ホールディングス株式会社 嶋田 泰夫 代表取締役社長、須田 義大 機構長・本所 教授、本所 年吉 洋 所長よりご挨拶をいただいた後、大口特任教授より「社会連携研究部門「データインフォームド都市・交通学」の活動概要」、阪急阪神ホールディングス株式会社 日下部 貴彦 データアナリシスディレクターより「社会連携研究部門と阪急阪神ホールディングス データ分析ラボの連携」と題してご説明をいただきました。第二部のシンポジウム「都市と人をつなぐデータ流通が拓く、もしかする未来の新たな地平」

では、SAP ジャパン株式会社 鈴木 洋史 代表取締役社長より「グローバルから見たHH cross ID」、株式会社スクウェア・エニックス AI部 三宅 陽一郎 ジェネラル・マネージャー／リード AIリサーチャー・本所 特任教授より「メタ AI、キャラクター AI、空間 AIで作るスマートシティ」と題した基調講演をいただきました。さらに、阪急阪神ホールディングス株式会社 グループ開発室 山本 隆弘 DXプロジェクト推進部長より「阪急阪神 DXプロジェクト -1.0」、本研究部門 本間 健太郎 特任准教授より「データ駆動とユーザー志向をつなぐ“デザイン”」と題した話題提供をいただきました。第二部の登壇者4名に大口特任教授、日下部データアナリシスディレクターを加え、パネルディスカッションにより議論を深めた後、本研究部門 関本 義秀 特任教授の閉会挨拶により閉会しました。全体を通して、ご参加いただいた企業の皆様と本研究部門の連携のきっかけとなる、大きな構想と熱のこもった議論が展開されました。

本シンポジウムの現地参加者は100名超、オンラインの参加者は300名超となり大変盛況となりました。この場を借りて、ご講演及びご参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。

(次世代モビリティ研究センター
特任研究員 長谷川 悠)



嶋田社長による挨拶



パネルディスカッションの様子



年吉所長による挨拶



シンポジウム会場の様子

第11回 海中海底工学フォーラム・ZERO開催

4月26日（金）、第11回海中海底工学フォーラム・ZERO (<https://seasat.iis.u-tokyo.ac.jp/UTforum/>) が、本所コンベンションホールで開催された。本フォーラムは、理学と工学の水面下の接点を探るべく、年に2回、本所（春）と本学 大気海洋研究所（秋）にて、海中海底工学に関する最新の動向を取り上げて開催されている。今回は、108名（前年は85名）の現地参加者に加えて、192名（前年は133名）がオンライン参加した。コロナがほぼ収束し、現地参加者が戻るとともに、オンライン会議が定着してきたと思われる。

今回から、ユネスコ政府間海洋学委員会 IOC (Intergovernmental Oceanographic Commission) 議長に選出されてフォーラム幹事を辞退された大気海洋研究所 道田 豊 特任教授に代わり、同所 山口 飛鳥 准教授が新幹事として、本所 巻 俊宏 准教授（幹事）とともにフォーラムを盛り上げていくことになった。

巻幹事による開会の挨拶の後、8件の講演が行われた。東京工業大学 関根 康人 教授による「地球“外”海洋の発見、探査、そして生命生存可能性」は、生命を育む星は地球以外にもあるのか、という問いかけから、我々は孤独か、我々はどこから来てどこへ行くのか、それを知るために海洋と宇宙の連携で取り組むとき、へと導かれた。壮大な宇宙ロマンを透徹した化学分析によって語り尽くした一時であった。また、大気海洋研究所 上坂 怜生 特任研究員による「荒波と暴風の中

で飛び立つアホウドリ～局所的な環境条件が海鳥に与える影響～」は、アホウドリに装着したデータロガーの記録から、海上風や波高がアホウドリの飛び立ちに与える影響を分析したものである。アホウドリの飛び立ちには、波が高い方が良く、という結果には、多くの聴衆がどよめいた。なお、気になるロガーの回収は、鳥が営巣地にある自分の巣に帰還する習性を利用して、巣において取り付け・回収を行うため、他の動物に比べて「比較的楽です」との事。これらの講演の他にも、港湾空港技術研究所 吉江 宗生 特別研究主幹による能登半島地震による港湾被災調査の概要とその復旧に向けた数多くの困難への挑戦、6000m級 AUV によるレアアース泥探査への挑戦と現場での苦労、イギリスのベンチャー企業による海底や構造物などの高精度リアルタイム 3D マッピング技術の紹介など多彩な話題が次々に提供され、息をつく間もないほど充実した一時を過ごした後、山口新幹事による閉会の挨拶で締めくくった。

次のフォーラムは、2024年10月11日（金）、大気海洋研究所2階講堂で開催いたします。巻および山口幹事ともども、皆様のご参加をお待ちしています。

（海中観測実装工学研究センター
特任研究員 杉松 治美）



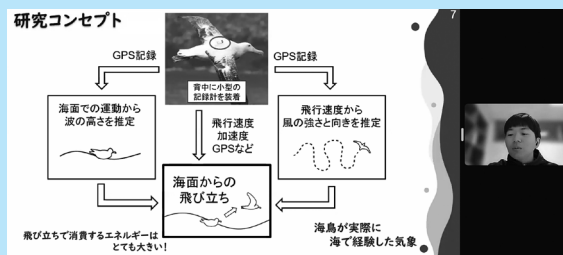
開会の挨拶を行う巻准教授（幹事）



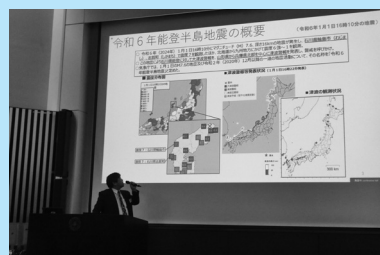
閉会の挨拶を行う山口准教授（新幹事）



関根教授による講演



上坂特任研究員による講演



吉江特別研究主幹による講演

「消滅可能性都市・銚子市を再生可能性都市へ」 地域づくりの担い手が140名集まり、シンポジウム開催

2022年度に始まった本学 社会科学研究所（社研）と本所を横断する文理融合の産学連携研究「地域力創発デザイン」（生研ニュース No.194 参照）では、時代の三大課題であるレジリエンス、カーボンニュートラル、サステナビリティの実現を同時に解く総合的なソリューションを具体の地域を対象に探求している。

去る4月26日（金）、将来20～25年で人口半減という危機的な状況に直面する消滅可能性都市・銚子市にて、脱炭素をキーワードに地域の未来を拓く議論を行うシンポジウムが開催された。

シンポジウムは、社研 地域力創発デザイン社会連携研究部門、銚子市、同市 商工会議所等による地域総出の実行委員会の主催で、洋上風力の三菱商事株式会社や陸上風力の株式会社関電工を始めとする地域外企業、銚子電鉄株式会社等の地域内企業の内外関係者や市民130名が集まった。インスタグラムのライブ配信では約1,000人が視聴した。

社研 中村 尚史 教授の基調講演「地方からの産業革命」、社研 特任教授でもある本所 加藤 孝明 教授の話題提供「銚子の未来を展望するために」の後、本所 角田 朋哉 研究顧問のコーディネートでパネルディス

カッション「脱炭素をテコにした地域貢献」が行われ、地域外企業が風力発電を中核とする地域と連携した重層のかつ創造的な取組みを紹介し、地域連携の更なる可能性が示された。引き続き、加藤教授のコーディネートでパネルディスカッション「脱炭素は課題解決、地域づくりのチャンス」が行われ、かつての先進都市が斜陽都市へ転落した過去を振り返った上で、希望と誇りを取り戻すべく、再生可能エネルギーを資源とした新たな地域づくりに向けた議論が行われた。銚子市 越川 信一 市長をはじめ、地域金融、漁協等が参画し、脱炭素をきっかけとして、地域に残された最後の社会共通資本である「海と風」を活かして、地域が一丸となって循環型の地域モデルの構築に向けて議論が行われた。最後に、ビジョンの実現に向けて地域のあるべき状態として社研の「希望学」の成果である““HOPE” is a Wish for Something to Come True by Action.”を引用しつつ、再生可能エネルギーや海洋利用等の要素技術、それを地域で実現するつなぐ地域づくりの計画技術の重要性と可能性が共有された。まさに文理融合とあるべき地域連携の姿が示された会であった。

（人間・社会系部門 教授 加藤 孝明）



登壇者の集合写真

前列左から、中村教授、銚子商工会議所 岡田 知益 会頭、加藤教授、越川市長、株式会社 関電工 野本 健司 特任理事、角田研究顧問
後列左から、銚子電気鉄道株式会社 竹本 勝紀 代表取締役、銚子漁業協同組合 辻 勝美 副参事、株式会社 渋谷潜水工業 渋谷 正信 代表取締役、銚子信用金庫 地域サポート部 伊藤 剛康 部長、三菱商事株式会社 銚子支店 白井 宏治 支店長、銚子電力株式会社 新谷 一将 代表取締役社長

令和6年度第1回生研サロン開催報告

令和6年度第1回生研サロン「生研の未来展望 ～もしかする〇〇に向けて議論再開～」が5月23日(木)にオンラインで開催され、60名近くの参加者が集まりました。このサロンは、4月から本所の新所長として年吉 洋 教授が着任されたことに伴い、所の未来構想に関する話題提供と、参加者を含めた意見交換を目的に企画されたものです。

まず、年吉所長から、所の現在位置と未来構想に関する話題提供がありました。冒頭では、本学として四半期以上かけて南米チリに建設した「東京大学アタカマ天文台 (TAO)」プロジェクトが紹介され、大規模プロジェクトを推進するために、いかに継続的な熱意が重要であるかや、長期的な研究計画を考える重要性が伝わりました。その上で、本所の長期計画を検討してきた将来計画委員会や生研元気タスクフォース、将来構想戦略化 WG での取り組みに触れられ、オープンリソースの活用を推進すること、委員会形式ではなく自由なディスカッションの場を設けることの必要性が提案されました。

参加者を含めた意見交換では、上述した委員会に携わられた先生方から、当時の資料や雰囲気の共有がな

され、本所の強みと将来ビジョンについて自由な議論が行われました。また、本所の設立 70 周年に当たって発行された冊子「生研プロフィール：エディ (Eddy)」の内容も紹介され、異なる研究分野が接触し合い、豊かな創造の渦を生み出し続けてきた本所ならではの個性と強みが再確認されました。

資金調達や、学生・若手研究者の支援、教員同士による研究内容の把握を促進させるためのアイデアについても活発な議論が行われました。いずれについても、人的ネットワークがもつ重要性が認識されました。そのためにも、フェイス・トゥ・フェイスの対話が必要であり、新たなコミュニティスペースの設置や食堂やコーヒブレイクを活用したカジュアルな交流の推奨が話し合われました。

参加者全員から、「堅苦しくし過ぎることなく継続的に考え続けよう」という雰囲気が伝わるひと時でした。今回のサロンは、本所の未来展望を描くための貴重な場となり、多くの参加者が積極的に意見を交換する良い機会となりました。

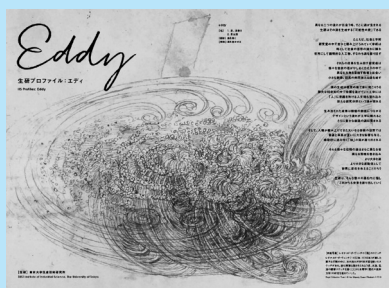
(企画運営室 准教授 本間 裕大)



生研サロン参加者の集合写真 (一部)



東京大学アタカマ天文台 (TAO) の周辺環境



本所設立70周年記念事業の一環として発行された生研プロフィール：エディ (Eddy)

ダイニングラボ活動報告

駒場リサーチキャンパスのダイニングラボは、引き続き様々な企画を開催している。

リレー企画「はし休めプチトーク」は、4月19日（金）の第13回に本所 菅野 裕介 准教授がテーマ「解放する」で、5月22日（水）の第14回には本所 志村 努教授がテーマ「操る」で、さらに、6月20日（木）の第15回に本所 立間 徹 教授 がテーマ「透ける」で、研究紹介を行った。

駒場リサーチキャンパス構成員対象の交流企画「KOMANI BREAK TIME」は、4月18日（木）、5月22日（水）、6月21日（金）の計3回、開催した。4月の回は、食堂棟入口付近のスロープ及びテラス新設工事の完了を受け、お披露目も兼ねた。新年度を迎え、参加者も増えたことから、新しい交流も生まれたようである。

本所及び本学 先端科学技術研究センター（先端研）の研究者と産学連携に関心を持つ企業の担当者などが、それぞれの専門を越えて交流する場として企画された「駒Ⅱサロン」は、4月11日（木）に第2回目

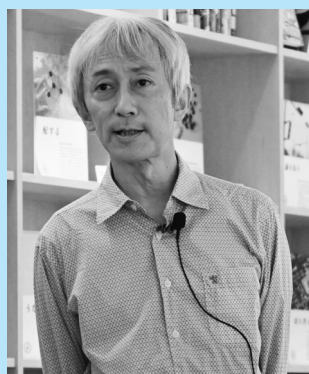
を開催し、約30名の参加があった。

「ダイニングラボ地域連携企画」では、5月10日（金）、「生まれ変わる東尋坊」をテーマに、福井県坂井市 池田 禎孝 市長と本所 川添 善行 准教授による対談や、川添 准教授による東尋坊再生プロジェクトについての講演が行われた。

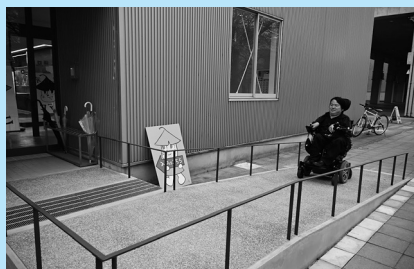
ダイニングラボは、5月下旬から、本学 多様性包摂共創センターによる「言葉の逆風」キャンペーンに参画・展開した。同キャンペーンは、性別による役割分担意識から発せられる何気ない言葉が、女性の学生・研究者のキャリアに影響することへの啓発を促すものである。食堂コマニの協力も得て、トレイのランチョンマットやポスター、パンフレット、デジタルサイネージなどでの情報展開に努めた。

今後もダイニングラボが、様々な情報発信の場として機能することが期待される。

（社会連携・史料室）



左から、菅野准教授、志村教授、立間教授、川添准教授による講演の様子



スロープを利用する先端研 熊谷 晋一郎 教授



駒Ⅱサロンの様子



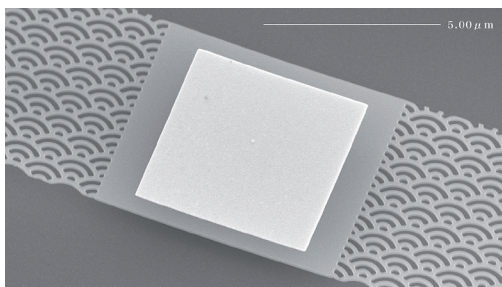
「言葉の逆風」キャンペーンのポスター

PRESS RELEASE

【4月5日記者発表】

熱伝導の異方性が温度で逆転するシリコンナノ構造を実現 ——和装柄構造で半導体デバイスの進化に貢献——

情報・エレクトロニクス系部門 特任助教 キム ビョンギ、教授 野村 政宏



本所 キム特任助教、野村教授らは、電子材料に用いられるシリコンにおいて、熱を運ぶ準粒子であるフォノンの準弾道的輸送を積極的に利用することで、80K（ケルビン、80K はマイナス 193℃）付近で熱伝導率の異方性を逆転させる構造を実現した。本研究では、日本の伝統的な和装柄の一種である青海波に着目し、フォノンの平均自由行程より小さい構造にすることで、熱伝導率の異方性を4Kで約0.8から300Kで約1.2に逆転させることに成功した。

この成果は、適切なナノ構造を形成することで、熱流方向を温度帯で制御することが可能であることを示し、半導体デバイスの熱管理に広く応用できるため、AI コンピューティングやモバイル通信機器などに用いられ、ユビキタス社会の発展に貢献することが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4493/>

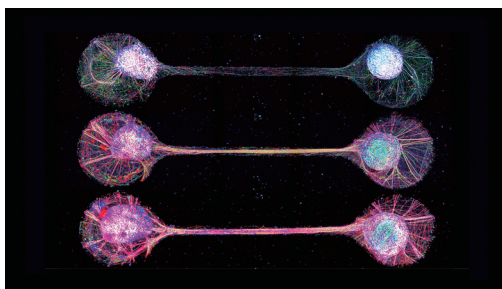
掲載誌：ACS Nano

DOI: 10.1021/acsnano.3c12767

【4月11日記者発表】

軸索で結合させた大脳オルガノイドは複雑な神経活動を示す ——脳の発達と機能の解明に新たな手法を開発——

物質・環境系部門 博士課程 ドンキー 智也、
特任研究員（研究当時）池上 康寛、特任助教 周 小余、特任助教（研究当時）大崎 達哉、准教授 池内 与志穂



本所 池内 与志穂 准教授、大崎 達哉 特任助教（研究当時）、周 小余 特任助教、池上 康寛 特任研究員（研究当時）、ドンキー 智也 本学大学院工学系研究科 化学生命工学専攻 博士課程、ボルドー大学 ロマン・ボボワ 博士課程、ティモテ・レヴィイ 教授、鹿児島大学 玉川（中川）直 助教、宮崎大学 平野 羊嗣 准教授の研究チームは、ヒト iPS 細胞から作製した大脳オルガノイド同士を神経軸索で結合させ、複雑な神経活動を示す脳組織モデルの開発に成功した。

本研究では、2つの大脳オルガノイドの間に神経の束を形成させて相互に結合した脳組織モデルを作製し、その神経活動を解析した。この組織（コネクティド）は、従来の単独の大脳オルガノイドや、直接融合させた大脳オルガノイドと比べて、より複雑で強い、同期した神経活動を示した。また、光遺伝学的手法により神経束を刺激すると、神経活動が引き込まれ、短期的な可塑性も観察された。本研究は、脳の領野間を結ぶ神経回路網の発達メカニズムや機能の解明に新たなアプローチを提供するものである。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4505/>

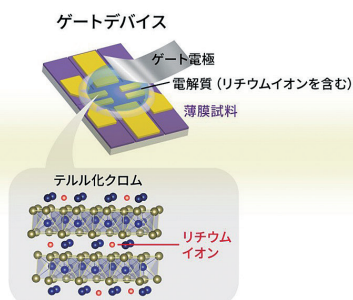
掲載誌：Nature Communications

DOI: 10.1038/s41467-024-46787-7

【4月15日共同発表】

磁性半金属の特異な磁性をゲート電圧で変調することに成功 ——スピントロニクスへの応用展開に期待——

基礎系部門 特任助教 松岡 秀樹



磁性半金属と呼ばれる特殊な強磁性体において、強磁性転移温度、磁気異方性、磁気輸送特性などの性質を、ゲート電圧で変調することに成功した。この磁性の変調において、強磁性転移温度の大幅な上昇、磁気異方性の完全な切り替えなどの劇的な変化が観測され、その起源として半金属的な電子構造と磁性の強い結合が示唆された。

本研究の結果を利用することで、磁性半金属を主役とする新原理スピントロニクスデバイスへの応用展開が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4512/>

掲載誌：Science Advances

DOI: 10.1126/sciadv.adk1415

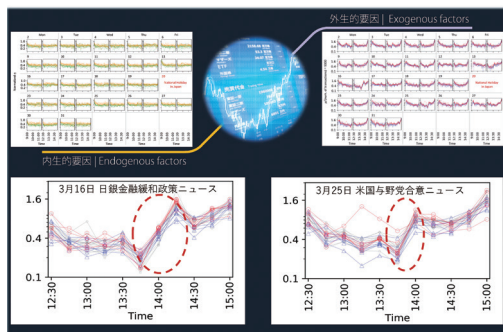
（発表主体：大学院工学系研究科）

PRESS RELEASE

【4月18日記者発表】

株式取引の外生的・内生的要因を推定する 効率的なアルゴリズムを開発 ——COVID-19流行初期における東証市場のダイナミクスを網羅的に可視化——

人間・社会系部門 特任講師 伊藤 真利子、准教授 本間 裕大



本所 伊藤 真利子 特任講師、本間 裕大 准教授、立教大学 大学院人工知能科学研究科 大西 立顕 教授、本学 大学院経済学研究科 渡辺 努 教授、本学 合原 一幸 特別教授／名誉教授による研究グループは、東証株式市場における取引点過程時系列から、外生的要因（ニュースなどの外部情報が取引を起こす効果）と取引が起きる内生的要因（取引が取引を呼ぶ効果）の強さを推定する新たなアルゴリズムを開発した。このアルゴリズムは、特に不安定な時期の取引ダイナミクスを明らかにすることを可能にするものである。2020年3月、COVID-19の流行により不安定化した東証市場データを用いた分析では、外部情報と内在ダイナミクスの相互作用による取引の増減を銘柄ごとに推定し、金融緩和や政策やCOVID-19対策経済パッケージの影響を確認した。さらに、市場の反応の銘柄間差異も明らかになった。このアルゴリズムの適用性を検証するため、研究グループは、金融庁と連携し、より詳細な研究用データを用いた分析を進めており、市場の安定性・不安定性のメカニズム解明と変動予測の精度向上に貢献することが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4514/>

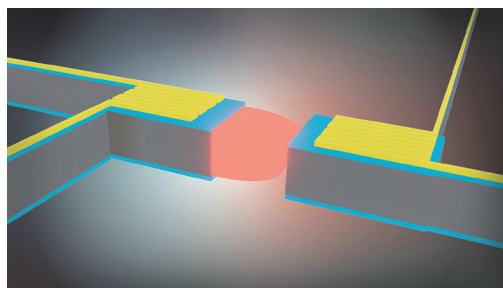
掲載誌：PLOS ONE

DOI: 10.1371/journal.pone.0301462

【5月9日記者発表】

シリコン膜からの熱放射の倍増に成功 ——半導体デバイスの排熱問題の解決に期待——

情報・エレクトロニクス系部門 博士課程（研究当時）立川 冴子、国際研究員 ホセ オルドネス、国際研究員 ロラン ジャラベール、国際研究員 セバスチャン ヴォルツ、教授 野村 政宏



本研究グループは、シリコン膜の表面をわずかに酸化させるだけで、プランクの熱放射則で決まるとされていた熱放射を倍増させることに成功した。そして、この熱放射の増強に表面フォノンポラリトンが寄与したことを理論計算によって明らかにした。この成果は、適切な半導体構造を設計して表面フォノンポラリトンを利用することにより、誘電体膜を数十ナノメートルまで薄くしないとプランクの熱放射則を上回る熱放射は得られないという従来の定説を覆し、丈夫で扱いやすい支持構造を有した半導体からでも、空間への放熱をより効率的に行うことができることを示している。今後、排熱を課題とする電子機器の熱管理や輻射ヒーター、宇宙空間での放熱などへの幅広い応用が期待できる。

本研究は、フランス国立科学研究センターと共同で行われた。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4522/>

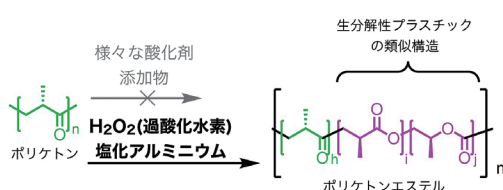
掲載誌：Physical Review Letters

DOI: 10.1103/PhysRevLett.132.186904

【5月9日共同発表】

「主鎖編集」により微生物で分解するプラスチック合成へ新たな道 ——プロピレンと一酸化炭素と過酸化水素から合成——

物質・環境系部門 特任研究員（研究当時）Jian Zhou、講師 中川 慎太郎、教授 吉江 尚子



本学 大学院工学系研究科および本所ならびに群馬大学 大学院理工学府の研究グループは、工業原料として安価で豊富に得られるプロピレンと一酸化炭素と過酸化水素から、生分解性プラスチックとして知られるポリ 3-ヒドロキシブタン酸と同じ構造を持つ高分子を合成する方法を見出した。

直接目的の高分子を合成するのではなく、まずプロピレンと一酸化炭素からポリケトン合成し、ポリケトンの主鎖に対して塩化アルミニウム存在下で過酸化水素を用いた酸化反応を施すことで目的高分子を得る「主鎖編集」の戦略により、低コスト原料からの合成を達成した。得られた高分子の一部は土壌微生物により無機化された。さらに、一般に脆く製品への応用が難しい生分解性ポリ乳酸と混合することで脆さが軽減されることも見出され、既知の生分解性プラスチックの性質改善に応用できる可能性が示唆された。

本研究成果は生分解性高分子の低コストかつ大規模な生産につながり、廃プラスチックによる環境汚染問題の解決に大きく貢献することが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4526/>

掲載誌：Journal of the American Chemical Society

DOI: 10.1021/jacs.4c04389

（発表主体：大学院工学系研究科）

P R E S S R E L E A S E

【5月10日共同発表】

電力系統の混雑緩和を実現するシステムのフィールド実証を開始 ―2050年カーボンニュートラルに向け、分散型エネルギーリソースの活用による配電用変電所の混雑緩和の実現性を検証―

人間・社会系部門 教授 岩船 由美子



NEDOは、東京電力パワーグリッド株式会社、学校法人早稲田大学、株式会社三菱総合研究所、関西電力送配電株式会社、京セラ株式会社、本所、中部電力パワーグリッド株式会社、東京電力エナジーパートナー株式会社、東京電力ホールディングス株式会社および三菱重工業株式会社の10者からなるコンソーシアムと、電力系統の混雑緩和のための分散型エネルギーリソース制御技術開発（FLEX DERプロジェクト）」に取り組んでいます。

5月1日より本事業において、蓄電池などの分散型エネルギーリソースを活用した系統混雑緩和の実現性を確認するフィールド実証を開始した。フィールド実証では、実際の電力系統に実証用システムを構築し、配電用変電所の混雑緩和の実現性を確認するための技術的検証を行います。

この検証結果を既存設備に最大限活用し、再生可能エネルギー導入量を拡大させるためのシステム開発に活かすことで、2050年カーボンニュートラル実現に貢献します。

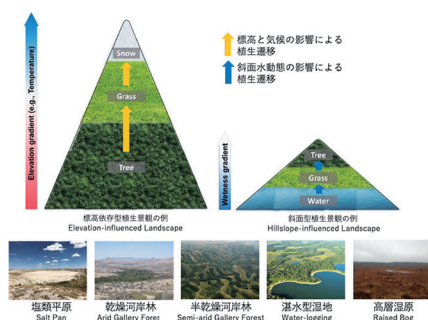
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4527/>

（発表主体：新エネルギー・産業技術総合開発機構）

【5月14日記者発表】

斜面水動態に影響された不思議な植生景観を世界各地で発見 ―高解像度の地形・植生データを用いて植生分布の不均一性の要因を解析―

人間・社会系部門 博士課程 李 庶平、特任助教 周 旭東（研究当時）、特任研究員 趙 剛（研究当時）、准教授 山崎 大



斜面水動態による丘と谷の水分コントラストは、数メートルの標高差で植生被覆が遷移する「斜面型植生景観」という独特な植生パターンを生むことがある。斜面型植生景観が、どこにどの程度存在するかは知られていなかったが、高解像度の地形・植生データの分析により世界各地で多様な気候帯にまたがり多数分布することを発見した。森林限界などの標高による気候勾配に影響を受ける「標高依存型植生景観」と比較しても、斜面型植生景観は同数以上存在し、植生不均一性の要因として無視できないことが示された。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4529/>

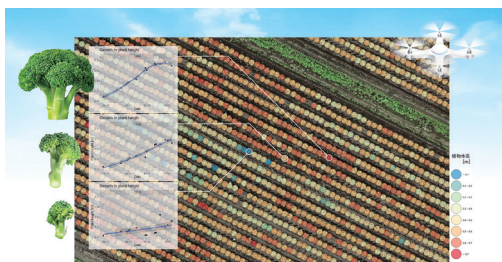
掲載誌：Water Resources Research

DOI: 10.1029/2023WR036214

【5月16日記者発表】

東京大学 生産技術研究所とエア・ウォーターによる「IoTセンシング解析技術」社会連携研究部門が共同研究成果を発表 ～「予測」「観察」技術により、食品ロス削減や農業生産性の向上に寄与～

人間・社会系部門 特任教授 沖 一雄



本所とエア・ウォーター 株式会社は、収穫に適した時期（収穫適期）を高い精度で「予測」する技術と、農業生産性の向上に有効な「観察*」する技術に関する共同研究成果を得ることに成功した。

気温データの収集のみで、最も重要な指標である収穫適期を予測するモデルと、ドローンで農作物の生長量・生育速度を比較・推定し、収穫数/量を精度高く予測するモデルを提供する。高額な設備投資をすることなく、収穫量の最大化、安定的な確保、収穫に関わる機材や人員の最適化を通じて、生産性の向上を目指していきたい。

*将来的にAIやロボットが当然のように人々の生活の中に溶け込み、人に代わってロボットなどが観察できる時代が来るであろうことを見越して、「観測」技術ではなく「観察」技術という表現を使用している。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4531/>

掲載誌：Journal of Agronomy (MDPI)

DOI: 10.3390/agronomy14020361

掲載誌：Sensors and Materials

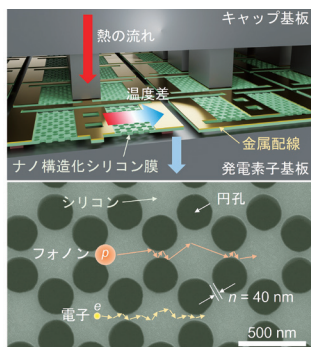
DOI: 10.18494/SAM4364

PRESS RELEASE

【5月23日記者発表】

シリコンナノ構造で環境熱から発電——トリリオンセンサ社会に貢献——

情報・エレクトロニクス系部門 特任助教 柳澤 亮人、博士課程（研究当時）小池 壮太、
修士課程（研究当時）縄江 朋季、教授 野村 政宏



本所 柳澤 亮人 特任助教、野村 政宏 教授らは、ナノ構造化シリコン薄膜を用いた熱電発電素子を開発し、シリコンウエハ上に半導体プロセスで大量に生産しう熱電発電素子として世界最高の発電性能を達成した。

従来のシリコン薄膜を用いた発電素子と比較して 10 倍以上の性能向上を実現したことにより、より小さな温度差からでもセンサを駆動する電力を得ることが可能になり、トリリオンセンサ社会を支えるエナジーハーベスト技術として広く利用されることが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4533/>

掲載誌：Materials Today Physics

DOI: 10.1016/j.mtphys.2024.101452

【6月14日記者発表】

溶融したチタンから酸素濃度の低いチタンを直接製造する革新的技術の開発——チタン製品の爆発的普及へと期待——

物質・環境系部門 教授 岡部 徹、助教（研究当時）上村 源、特任研究員 池田 貴、講師 大内 隆成

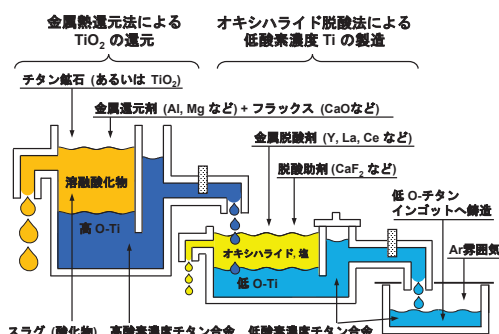


図 チタン鉱石から金属チタンやチタン合金を製造する新プロセスの概念

豊富な資源量と優れた性質を有するチタン (Ti) は、年々その需要が高まっているが、鉱石中のチタンと酸素 (O) の分離が困難であるため、鉄 (Fe) やアルミニウム (Al) のように大量生産することができず、大規模な普及の障害となっている。

希土類金属とそのフッ化物を用いることで、酸素を含む溶融したチタンから 0.02 質量 % (200 mass ppm O) 程度の低濃度まで酸素を除去できる革新的な技術を開発した。

本技術により、チタンの酸化物鉱石や酸素を多量に含むチタンのスクラップから、中間化合物を経由せずに、高純度の金属チタンを製造することが可能となるため、チタンの生産コストが劇的に低下し、チタン製品が爆発的に普及することが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4540/>

掲載誌：Nature Communications

DOI: <https://doi.org/10.1038/s41467-024-49085-4>

VISITS

■博士研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
WEN, Yilin	中国	2024/ 4/ 9 ~ 2024/ 6/15	情報・エレクトロニクス系部門 菅野 裕介 准教授

■東京大学特別研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
WANG, Shuohan	中国	2024/ 4/ 1 ~ 2025/ 3/31	機械・生体系部門 梶原 優介 教授
胡 紅	中国	2024/ 4/ 1 ~ 2025/ 3/31	人間・社会系部門 菊本 英紀 准教授

■人事異動

生産技術研究所 教員等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	加藤 千幸	定年退職	—	教授 機械・生体系部門
R6. 3.31	鈴木 彰一	退職	国土交通省	准教授 人間・社会系部門
R6. 3.31	ZHANG TIANHAO	退職	—	助教 人間・社会系部門
R6. 3.31	久保 淳	退職	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	助教 基礎系部門
R6. 3.31	楊 波	退職	九州工業大学	助教 機械・生体系部門
R6. 3.31	OU Guangfeng	退職	—	助教 人間・社会系部門
R6. 3.31	中 貴一	退職	—	助教 人間・社会系部門
R6. 3.31	畑 勝裕	退職	—	助教 情報・エレクトロニクス系部門

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	合田 和生	昇任	教授 附属大規模実験高度解析推進基盤	准教授 附属大規模実験高度解析推進基盤

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	平岩 洋三	採用	准教授 人間・社会系部門	海外道路プロジェクト推進官 国土交通省道路局企画課
R6. 4. 1	檜垣万里子	採用	准教授 機械・生体系部門	—
R6. 4. 1	SCIAZKO ANNA	採用	講師 機械・生体系部門	特任助教 機械・生体系部門
R6. 4. 1	武藤 宝	採用	助教 人間・社会系部門 川口研究室	—
R6. 4. 1	ZHOU JINXIN	採用	助教 機械・生体系部門 北澤研究室	特任研究員 機械・生体系部門
R6. 4. 1	坂間 亮浩	採用	助教 物質・環境系部門 工藤研究室	—
R6. 5.16	左右田智美	採用	助教 附属価値創造デザイン推進基盤研究推進部門トレジャーハンティング分野II	特任研究員

(任期付教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	枝川 圭一	任期更新	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター材料強度物性分野	—
R6. 4. 1	AZIZ MUHAMMAD	任期更新	准教授 機械・生体系部門エネルギープロセス統合工学分野	—

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	年吉 洋	兼務	所長	—
R6. 4. 1	新野 俊樹	兼務	副所長	—
R6. 4. 1	大口 敬	兼務	副所長	—
R6. 4. 1	町田 友樹	兼務	副所長	—
R6. 4. 1	大口 敬	兼務	附属大規模実験高度解析推進基盤長	—
R6. 4. 1	北澤 大輔	兼務	附属大規模実験高度解析推進基盤副基盤長	—
R6. 4. 1	新野 俊樹	兼務	附属価値創造デザイン推進基盤長	—
R6. 4. 1	鹿園 直毅	兼務	附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター長	—

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R6. 4. 1	山中 俊治	兼務	特任教授 附属価値創造デザイン推進基盤	特別教授 東京大学特別教授室
R6. 4. 1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	PENNINGTON MILES RICHARD MACINTOSH	兼務	教授 附属価値創造デザイン推進基盤	教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	目黒 公郎	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	大原 美保	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	岩本 敏	兼務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 先端科学技術研究センター
R6. 4. 1	瀬崎 薫	兼務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 空間情報科学研究センター
R6. 4. 1	関本 義秀	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究センター
R6. 4. 1	北條 博彦	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
R6. 4. 1	山川 雄司	兼務	准教授 機械・生体系部門	准教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	上條 俊介	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	沼田 宗純	兼務	准教授 人間・社会系部門	准教授 大学院情報学環
R6. 4. 1	松久 直司	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 先端科学技術研究センター
R6. 4. 1	小林 正治	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大学院工学系研究科

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
R6. 4. 1	伊藤 哲朗	委嘱称号付与	客員教授 人間・社会系部門	—
R6. 4. 1	菅谷 綾子	委嘱称号付与	客員教授 基礎系部門	—
R6. 4. 1	川口 勝義	委嘱称号付与	客員教授 機械・生体系部門	—
R6. 4. 1	寒川 哲臣	委嘱称号付与	客員教授 情報・エレクトロニクス系部門	—
R6. 4. 1	澤野憲太郎	委嘱称号付与	客員教授 情報・エレクトロニクス系部門	—
R6. 4. 1	藤村 隆史	委嘱称号付与	客員准教授 高次協調モデリング部門	—

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R6. 4. 1	岡部 徹	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R6. 4. 1	今井公太郎	兼務	特任教授 アジア都市 TOD 寄付研究部門	教授 附属価値創造デザイン推進基盤
R6. 4. 1	所 千晴	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 大学院工学系研究科
R6. 4. 1	大内 隆成	兼務	特任講師 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	講師 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R6. 4. 1	菅野 智子	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 物質・環境系部門
R6. 4. 1	山中 俊治	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	特別教授 東京大学特別教授室
R6. 4. 1	志村 努	兼務	特任教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	教授 基礎系部門

PERSONNEL

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R6. 4. 1	芦原 聡	兼 務	特任教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	教授 基礎系部門
R6. 4. 1	池内与志徳	兼 務	特任准教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	准教授 物質・環境系部門
R6. 4. 1	鹿園 直毅	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R6. 4. 1	大岡 龍三	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R6. 4. 1	梶原 優介	兼 務	特任教授 未来志向射出成形技術社会連携研究部門	教授 機械・生体系部門
R6. 4. 1	福谷 克之	兼 務	特任教授 着霜制御サイエンス社会連携研究部門	教授 基礎系部門
R6. 4. 1	大石 岳史	兼 務	特任准教授 IoTセンシング解析技術社会連携研究部門	准教授 情報・エレクトロニクス系部門
R6. 4. 1	合田 和生	兼 務	特任教授 ビッグデータ価値協創プラットフォーム工学社会連携研究部門	教授 附属大規模実験高度解析推進基盤
R6. 4. 1	岩船由美子	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.16	BRODY DORJE C	採用	特任教授 基礎系部門	—
R6. 3.31	甲斐知恵子	任期満了	—	特任教授
R6. 3.31	米田美佐子	任期満了	特任研究員	特任教授
R6. 3.31	金 炯俊	任期満了	—	特任准教授(特定短時間)
R6. 3.31	土肥浩太郎	任期満了	助教 医学部附属病院	特任助教(特定短時間)
R6. 3.31	GARI DA SILVA FONSECA JUNIOR JOAO	任期満了	—	特任准教授
R6. 3.31	SCIAZKO ANNA	任期満了	講師	特任助教
R6. 3.31	山本憲二郎	任期満了	—	特任助教
R6. 3.31	KIM BYUNGGI	任期満了	助教 東京工業大学工学院機械系	特任助教
R6. 3.31	佐々木由比	任期満了	講師 先端科学技術研究センター	特任助教
R6. 4. 1	田村 敦史	採用	特任助教 物質・環境系部門 八木研究室	—
R6. 4. 1	羽佐田紘之	採用	特任助教 人間・社会系部門 本間(裕)研究室	—
R6. 4. 1	池谷 風馬	採用	特任助教 人間・社会系部門 大口研究室	国立研究開発法人産業技術総合研究所 産総研特別研究員
R6. 4. 1	島田 真成	採用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 小林(徹)研究室	海外特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R6. 4. 1	武田 智信	採用	特任助教 人間・社会系部門 水谷研究室	—
R6. 4. 1	伊藤真利子	任命	特任講師 人間・社会系部門	特任助教
R6. 5.16	河合 江美	任命	特任助教 基礎系部門 梅野研究室	特任研究員
R6. 5.31	BRODY DORJE C	任期満了	—	特任教授
R6. 6. 1	DIEGO MICHELE	採用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	外国人特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R6. 6. 1	宮崎 邦洋	採用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 豊田(正)研究室	—

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	井村健一郎	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R6. 3.31	豊嶋 紘一	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	森藤可南子	任期満了	主任研究官 国立感染症研究所	特任研究員
R6. 3.31	GONG JIAMING	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R6. 3.31	小沢 健史	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	佐野 貴規	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	LUMA DEA	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	岸本 拓磨	任期満了	助教 名古屋工業大学	特任研究員
R6. 3.31	ZHONG DAI	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	XUE WEI	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	MARVIN SEOW XIANG CE	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	光元 亨汰	任期満了	助教 大学院総合文化研究科	特任研究員
R6. 3.31	COCHARD AUDREY CHRISTINE MARIE	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	PIRRO MATTEO	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	三浦 陽介	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	ALRIC BAPTISTE	任期満了	外国人特別研究員 独立行政法人日本学術振興会	特任研究員
R6. 3.31	WU PEIYUN	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	LI ZIXUAN	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	YANG YARU	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	SUN ZHUANG	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	長友 結希	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	MEI XUTAO	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	DONG SHUCHUANG	任期満了	准教授 東京海洋大学	特任研究員
R6. 3.31	ZHOU JINXIN	任期満了	助教	特任研究員
R6. 3.31	ZHAO GANG	任期満了	助教 東京工業大学環境・社会理工学院	特任研究員
R6. 3.31	IKZIBANE HAFSA	任期満了	—	特任研究員
R6. 3.31	ZHANG JIAO	任期満了	—	特任研究員
R6. 4. 1	倉持 悠輔	採用	特任研究員 物質・環境系部門 石井研究室	—
R6. 4. 1	高森 太郎	採用	特任研究員 情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	—
R6. 4. 1	井澤 佳織	採用	特任研究員 人間・社会系部門 本間(裕)研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R6. 4. 1	楊 巍	採用	特任研究員 情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	—
R6. 4. 1	LEFEBVRE ANTHONY MICHEL LUC	採用	特任研究員 機械・生体系部門 金(範)研究室	—
R6. 4. 1	SONG WENQING	採用	特任研究員 基礎系部門 芦原研究室	—
R6. 4. 1	XIE WENPENG	採用	特任研究員 人間・社会系部門 芳村研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R6. 4. 1	CHEN YAN	採用	特任研究員 機械・生体系部門 大島研究室	—
R6. 4. 1	MADRID CANALES IGNACIO JAVIER	採用	特任研究員 情報・エレクトロニクス系部門 小林(徹)研究室	—
R6. 4. 1	LI WEI	採用	特任研究員 人間・社会系部門 酒井(雄)研究室	—

PERSONNEL

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	李 肖陽	採用	特任研究員 人間・社会系部門 芳村研究室	助教（特定プロジェクト 教員） 九州大学大学院理学研究 院
R6. 4. 1	米田美佐子	採用	特任研究員 人間・社会系部門 岸研究室	特任教授
R6. 5. 1	池田 和弘	採用	特任研究員 機械・生体系部門 竹内（昌）研究室	
R6. 5.15	左右田智美	退職	助教 附属価値創造デザイン推 進基盤研究推進部門トレ ジャーハンティング分野Ⅱ	特任研究員
R6. 5.31	DIAS HEMAL RANAWAKA ARACHCHIGE	退職	－	特任研究員
R6. 5.31	MOON SUYEON	退職	－	特任研究員
R6. 6. 1	林 冠廷	採用	特任研究員 機械・生体系部門 梶原研究室	－

(特任専門員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	辻井 章雄	任期満了	任期制常勤職員 国立研究開発法人量子科 学技術研究開発機構	特任専門員

(特任専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	米山 浩	任期満了	特任専門職員（特定短時 間）	特任専門職員
R6. 3.31	山本 浩	任期満了	－	特任専門職員

(学術専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	塚本 淑子	任期満了	－	学術専門職員
R6. 3.31	志水 正敏	任期満了	学術専門職員 農学生命科学研究科	学術専門職員
R6. 3.31	秋元 颯門	任期満了	学術専門職員	学術専門職員
R6. 4. 1	中村 浩二	採用	学術専門職員 情報・エレクトロニクス 系部門 高宮研究室	学術専門職員 大学院工学系研究科
R6. 4. 1	森 時彦	採用	学術専門職員 情報・エレクトロニクス 系部門 高宮研究室	学術専門職員 大学院工学系研究科
R6. 4. 1	中野 多恵	採用	学術専門職員 次世代育成オフィス	－
R6. 4. 1	秋元 颯門	採用	学術専門職員 人間・社会系部門 藤幸研究室	学術専門職員

生産技術研究所 技術系

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	板倉 善宏	昇任	技術専門員 試作工場	技術専門職員 試作工場
R6. 4. 1	菅原 啓太	昇任	技術専門職員 試作工場	一般技術職員 試作工場

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	相原 健作	採用	技術専門職員 機械・生体系部門 中野研究室	専門研究員 東京藝術大学
R6. 4. 1	高桑 靖知	採用	技術専門職員 人間・社会系部門 大岡研究室	－
R6. 4. 1	菊地 拓郎	採用	一般技術職員 試作工場	技術員 大学共同利用機関法人自 然科学研究機構

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	長谷川仁則	再雇用 任期満了	－	一般技術職員 情報・エレクトロニクス 系部門
R6. 4. 1	高野 早苗	再雇用 任期更新	一般技術職員 物質・環境系部門	－
R6. 4. 1	片倉 智	再雇用 任期更新	一般技術職員 基礎系部門	－

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	奥山 光作	再雇用 任期更新	一般技術職員 物質・環境系部門	－

生産技術研究所 事務系

(学内異動（出）)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	眞鍋 浩二	配置換	部長 産学協創部	事務部長
R6. 4. 1	小林 正樹	配置換	課長 人事部労務・勤務環境課	総務課長
R6. 4. 1	小野口幸雄	配置換	副事務長 宇宙線研究所	総務課専門員（研究総務 チーム）／研究総務チ ームチームリーダー
R6. 4. 1	小城 哲夫	配置換	上席係長 医学部附属病院管理課施 設管理チーム	総務課上席係長（施設 チーム）／施設チーム チームリーダー
R6. 4. 1	荒井 誉子	配置換	係長 社会連携部社会連携企画 課社会連携チーム	総務課係長（人事・厚生 チーム）
R6. 4. 1	永友 敦子	配置換	主任 教養学部等図書情報管 理チーム	総務課主任（図書チーム）
R6. 4. 1	坂本 彩香	配置換	一般職員 経営企画部経営戦略課秘 書チーム	総務課一般職員（人事・ 厚生チーム）
R6. 4. 1	坂田 優里	配置換	一般職員 経営企画部国際戦略課国 際戦略チーム	総務課一般職員（国際交 流チーム）
R6. 4. 1	鈴木 智明	配置換	上席係長 新世代感染症研究セン ター研究支援チーム	経理課上席係長（企画 チーム）／企画チーム チームリーダー
R6. 4. 1	米山 碧	配置換	係長 財務部決算課財務分析 チーム	経理課係長（財務・監査 チーム）
R6. 4. 1	大内 啓彰	配置換	係長 本部監査課	経理課係長（執行チーム）
R6. 4. 1	酒田 慎也	配置換	係長 資産活用推進部資産企画 課資産管理チーム	経理課係長（執行チーム）
R6. 4. 1	江頭 美里	配置換	一般職員 文学部・人文社会系研究 科学生支援チーム	経理課一般職員（企画 チーム）
R6. 4. 1	立花 雪野	配置換	一般職員 情報システム部情報支援 課業務支援チーム	経理課一般職員（予算執 行チーム）

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	関 ふたば	採用	経理課一般職員（予算執 行チーム）	－

(学内異動（入）)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	宮崎 敏朗	昇任	事務部長	経済学研究科等事務長
R6. 4. 1	鈴木 雅裕	配置換	総務課長 研究環境調整室長	医学部附属病院人事労務 課長
R6. 4. 1	小笠原信博	配置換	総務課上席係長（研究環 境調整室施設チーム）／ 施設チームチームリー ダー	上席係長 柏地区共通事務センター 契約チーム
R6. 4. 1	横田 和雄	配置換	経理課上席係長（財務・ 監査チーム）	上席係長 ニューロインテリジェン ス国際研究機構財務企画 チーム
R6. 4. 1	藤野 聖士	配置換	経理課上席係長（連携研 究支援室執行チーム）／ 執行チームチームリー ダー	上席係長 医学部附属病院管理課 （経理チーム）
R6. 4. 1	大久保幸子	配置換	経理課上席係長（連携研 究支援室執行チーム）	上席係長 財務部財務課（財務総括 チーム）
R6. 4. 1	山守 康貴	配置換	総務課係長（人事・厚生 チーム）	係長 理学系研究科等総務課 （総務チーム〈人事担当〉）
R6. 4. 1	山西 陽子	配置換	総務課主任（図書チーム）	主任 教養学部等図書課（図書 館サービスチーム）
R6. 4. 1	時田のぞみ	配置換	総務課一般職員（総務 チーム）	一般職員 人事部人事企画課（文部 科学省）
R6. 4. 1	手塚 涼太	配置換	総務課一般職員（研究総 務チーム）	一般職員 産学協創部協創課（協創 推進チーム）

PERSONNEL

(学内異動 (入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	比留間 脩二	配置換	経理課一般職員 (連携研究支援室企画チーム)	一般職員 教養学部等総務課 (総務チーム)
R6. 4. 1	坂本 舞花	配置換	経理課一般職員 (連携研究支援室企画チーム)	一般職員 理学系研究科等経理課 (研究支援・外部資金チーム (科研費担当))

(復帰)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	神谷 夏子	配置換	総務課係長 (国際交流チーム)	係長 日本学術振興会国際事業部研究協力第二課 (二国間交流第二係)

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 4. 1	千葉 大輔	昇任	経理課上席係長 (予算執行チーム)	経理課係長 (予算執行チーム)
R6. 4. 1	佐々木 友明	昇任	経理課上席係長 (連携研究支援室企画チーム) / 企画チームチームリーダー	経理課係長 (連携研究支援室企画チーム)
R6. 4. 1	濱 あかり	昇任	経理課係長 (連携研究支援室執行チーム)	経理課主任 (連携研究支援室執行チーム)
R6. 4. 1	本田 峻介	昇任	総務課主任 (総務チーム) / 情報支援チームチームリーダー	総務課一般職員 (総務チーム)
R6. 4. 1	眞壁 典子	命	研究総務チームチームリーダー	—
R6. 4. 1	和氣 菜穂子	命	企画チームサブリーダー	—
R6. 4. 1	山縣 真依子	命	執行チームサブリーダー	執行チームリーダー
R6. 4. 1	寺岡 依里	勤務換	総務課係長 (人事・厚生チーム)	総務課係長 (総務チーム)

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R6. 3.31	三浦 弘三	再雇用 任期満了	—	総務課一般職員 (研究環境調整室環境安全チーム)

昇任・着任のご挨拶

情報・エレクトロニクス系部門 教授 合田 和生

4月1日付で教授に昇任いたしました。コンピュータシステムの基盤的なソフトウェアの研究に取り組んでおります。地味で日の当たりにくい分野なのですが、生研の深い懐の下、こういった研究に全力投球させていただくことができっております。今後も一貫してコンピュータシステムの基盤的な研究を展開しつつ、更にこれを基軸として社会問題へのリーチに挑戦して参ります。引き続き、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



基礎系部門 特任教授 ブローディ ドージェ

3月16日付で生産技術研究所にて2ヶ月半の間特任教授に就任しました。本務は英国サリー大学にて数学教授を務めております。専門分野は量子論の基礎研究、量子生物学、金融工学 (特に金利の理論)、選挙の数理モデル (特にフェイクニュースの影響を調べるモデル化)、など広範囲に及びます。最近では確率微分幾何学を応用した認知心理学、そして量子認知論に関した研究に携わっており、その研究に基づいて「人工量子知能」という概念を提唱しました。興味のある方は是非ご連絡ください。よろしくお願いします。



人間・社会系部門 准教授 平岩 洋三

4月1日付けで採用いただきました。これまで、国土交通省において、道路行政を中心に、政策立案、社会資本整備の現場、災害対応など、幅広く実務に携わってきた者です。また、生研との縁があり、東大土木の学部生の頃、卒論研究室として、人間・社会系部門 虫明 功臣・沖 大幹 研究室に在籍しておりましたので、23年ぶりの生研復帰となります。ITS、自動運転に係る産官学連携のプロジェクトを実現していくとともに、日本における将来のモビリティをどう築いていくか考えてまいりたいと思いますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



機械・生体系部門 准教授 檜垣 万里子

4月1日付で機械・生体系部門の准教授に着任いたしました。これまでプロダクトデザイナーとして、製品・サービスのデザイン、そして身の回りの製品の魅力をスケッチや映像で伝える活動をして参りました。生産技術研究所の魅力的な研究を人々に伝え、届けるものをデザインしながら、学問としてのデザインを模索したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



人間・社会系部門 特任講師 伊藤 真利子

4月1日付けで特任講師に着任いたしました。これまで人間・社会系部門と複雑社会システム研究センターに特任助教として在籍させて頂いており、金融市場データの分析を行って参りました。今後も同部門・センターにてお世話になります。自身の専門である集団意思決定数理の知識も活かしつつ、データドリブンアプローチで市場取引の定量化や変化点検知手法の開発を進めていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



機械・生体系部門 講師 Anna, Sciazko

I was appointed as a Lecturer starting April 1st. Since 2017, I have been working on high-temperature fuel cells, particularly on the correlation between their microstructures, performance, and degradation. I hope to apply my experiences to develop and characterize multiphase porous materials tailored for energy devices. My ultimate goal is to contribute to the development of efficient energy technologies vital for our future society. It is both a privilege and a responsibility to conduct research at the Institute of Industrial Science. I am deeply appreciative of the support and guidance I have received, and I look forward to making meaningful contributions to our pursuit of knowledge and innovation.



A W A R D S

受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
人間・社会系部門 川添研究室	准教授 川添 善行	令和4年度建築作品 優良賞 一般社団法人 香川県建築士会	四国村ミウゼアム おやねさん	2023. 5.22
情報・エレクトロニクス系部門 杉浦研究室	博士課程2年 Jun-Han Wang 博士課程3年 He He 修士課程1年 Kosuke Tamura 教授 Chang-Jun Ahn (千葉大学) Jaesang Cha (Seoul National University of Science and Technology) 特任助教 小島 駿	Best Paper Award Bronze Prize The 23rd International Conference on Electronics, Information, and Communication (ICEIC 2024)	Vehicle-To-Vehicle Communication Channel Estimator Based on Gate Recurrent Unit	2024. 1.30
人間・社会系部門 酒井 (雄) 研究室	准教授 酒井 雄也	Best Teaching Award 東京大学工学部	講義「コンクリート工学」	2024. 3.13
情報・エレクトロニクス系部門 豊田 (正) 研究室	佐藤 文一 (国立国会図書館) 特別教授 喜連川 優 (本学 特別教授室) 准教授 吉永 直樹 教授 豊田 正史	第30回年次大会 委員特別賞 言語処理学会第30回年次大会	音声認識を用いた青空文庫振り仮名注釈付き音声コーパスの構築の試み	2024. 3.14
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	修士課程2年 田村 鴻希 博士課程3年 根石 将人 准教授 吉永 直樹	第30回年次大会スポンサー賞 LINE ヤフー賞 言語処理学会第30回年次大会	低頻度語彙埋め込みの縮約による事前学習済みモデルの圧縮	2024. 3.14
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	博士課程3年 葛 侑磨 准教授 吉永 直樹	第30回年次大会 委員特別賞 言語処理学会第30回年次大会	評価の階層性に着目した雑談対話システム評価の分析	2024. 3.14
物質・環境系部門 小倉研究室	助教 安村 駿作	第133回触媒討論会 優秀講演賞 一般社団法人 触媒学会	反応経路自動探索法を活用した合理的メタン燃焼触媒開発	2024. 3.18
物質・環境系部門 井上 (博) 研究室	技術専門員 築場 豊	令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 研究支援賞 文部科学省	固体核磁気共鳴法による材料の局所構造解析への貢献	2024. 4.17
人間・社会系部門 大岡研究室	教授 大岡 龍三	コミショニング賞 公益社団法人 空気調和・衛生工学会	虎ノ門・麻布台地区におけるAI技術を活用した次世代型電熱供給エネルギープラントの構築に向けたコミショニング	2024. 5.10
人間・社会系部門 大岡研究室	教授 大岡 龍三	技術賞 建築設備部門 公益社団法人 空気調和・衛生工学会	白井データセンターキャンパスの全体計画と運用検証	2024. 5.10
人間・社会系部門 大岡研究室	教授 大岡 龍三	技術賞 奨励賞 公益社団法人 空気調和・衛生工学会	虎ノ門ヒルズビジネスタワーにおける環境・設備計画と性能検証	2024. 5.10
基礎系部門 栃木研究室	特任研究員 佐藤 隆昭	Outstanding Paper Award The United Japanese researchers Around the world and The Indiana Japan Chamber	Ultrahigh strength and shear-assisted separation ofsliding nanocontacts studied in situ	2024. 5.11
物質・環境系部門 大内研究室	講師 大内 隆成	第45回本多記念研究奨励賞 公益財団法人本多記念会	溶融塩と金属界面における反応制御による新規金属材料プロセスの開発	2024. 5.24
基礎系部門 梅野研究室	博士課程1年 Leelaprachakul TATCHAPHON 助教 久保 淳 教授 梅野 宜崇	令和5年度論文賞 公益社団法人 日本材料学会	ポリカーボネート破壊の粗視化分子動力学解析：分子鎖の絡み合いと空間分布からの破断応力予測モデルの提案	2024. 5.25
人間・社会系部門 坂本研究室	教授 坂本 慎一	2024年日本建築学会賞 一般社団法人 日本建築学会	環境騒音の予測と評価に関する一連の研究	2024. 5.30

受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	博士課程3年 高田 実佳	学生プレゼンテーション賞 第16回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム	単一表クエリを対象とするシノプシス埋込みによる近似問合せ処理の評価	2024. 3. 5
情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	修士課程1年 御手洗陽紀	学生プレゼンテーション賞 第16回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム	量子ランダムアクセスメモリ上での関係データベースの構成法の一検討	2024. 3. 5
情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	博士課程1年 木村 元紀 教授 合田 和生	株式会社 Scalar 賞 第16回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (株式会社 Scalar)	関係データベースにおける動的複数問合せ最適化の試作実装と初期評価	2024. 3. 5
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	博士課程3年 葛 侑磨 准教授 吉永 直樹	第30回年次大会 委員特別賞 言語処理学会第30回年次大会	評価の階層性に着目した雑談対話システム評価の分析	2024. 3.14
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	修士課程2年 田村 鴻希 博士課程3年 根石 将人 准教授 吉永 直樹	第30回年次大会スポンサー賞 LINE ヤフー賞 言語処理学会第30回年次大会	低頻度語彙埋め込みの縮約による事前学習済みモデルの圧縮	2024. 3.14
基礎系部門 町田研究室	修士課程2年 川崎 盛矢	マテリアル工学優秀修士論文賞 東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻	遷移金属ダイカルコゲナイドの価電子帯Γ点間における共鳴トンネル効果：負性微分抵抗の実証とバンド構造の探究	2024. 3.21
機械・生体系部門 松永研究室	博士課程3年 中野 静香	東京大学工学系研究科バイオエンジニアリング専攻長賞 東京大学工学系研究科バイオエンジニアリング専攻	三次元空間の物理的な環境を制御した足場材料を用いたオリゴデンドロサイト前駆細胞の機能評価	2024. 3.21
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	博士課程1年 趙 信	第259回自然言語処理研究発表会 若手奨励賞 情報処理学会 自然言語処理研究会	多様なプロンプトを用いた言語モデルの多角的な知識評価	2024. 3.29

A W A R D S

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
機械・生体系部門 巻研究室	博士課程2年 千 歳和	OCEANS2024 MTS/IEEE Singapore Student Poster Competition Second Place OCEANS2024 MTS/IEEE Singapore Student Poster Competition	3D Detection and tracking of mooring lines of floating offshore wind turbines by autonomous underwater vehicle	2024.4.17
物質・環境系部門 南研究室	博士課程2年 大代 晃平	日本化学会第104春季年会(2024)学生講演賞 優秀学生講演賞 公益社団法人日本化学会	塗布型導電性 MOF 薄膜デバイスによる多種 アミンガス検出	2024.4.23
人間・社会系部門 竹内(渉)研究室	博士課程2年 内藤 千尋 教授 竹内 渉	Excellent Student Paper Award 2024 ISRS Organizing Committee	Response of oil palms to water stress from land surface to canopy with satellite time series analysis in Malaysia	2024.4.26
人間・社会系部門 竹内(渉)研究室	博士課程3年 嵩田 将貴 主任研究員 水落 裕樹 (産業技術総合研究所) 教授 竹内 渉	Outstanding Student Paper Award 2024 ISRS Organizing Committee	Spectral characterization of solar PVs in hyperspectral data and the prospect of differentiating PV materials in satellite imagery	2024.4.26
情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	博士課程3年 SHI Hongyuan	第8回フォノンエンジニアリング研究会 優秀ポスター賞 公益社団法人応用物理学会 フォノンエンジニアリング研究	電子機器冷却用マニホールドマイクロチャネルにおける二相流沸騰に関する研究 Two-phase flow boiling in manifold microchannel for efficient electronics near-junction cooling	2024.5.18
機械・生体系部門 金(範)研究室	修士課程2年 稲垣 泰史	2024年度精密工学会春季大会学術講演会 ベストプレゼンテーション賞 公益社団法人 精密工学会	間質液分析用の多孔質マイクロニードルアレイと吸収材の二重構造化に関する研究	2024.5.30
機械・生体系部門 白樫研究室	博士課程3年 川合 晃生	第61回日本伝熱シンポジウム 優秀プレゼンテーション賞 公益社団法人 日本伝熱学会	短波長赤外顕微分光による氷点下水溶液中の水分子の水素結合状態と回転緩和時間の測定	2024.5.30
人間・社会系部門 桑野研究室	博士課程2年 Naqi Ali	令和5年度国際会議若手優秀論文賞 公益社団法人 地盤工学会	A DEM study on the degree of mixture of soil particles stirred by rotation of rods	2024.6.5
機械・生体系部門 横田研究室	修士課程2年 吉住 優憧	優秀論文発表賞 海洋音響学会	GNSS-A 観測に用いられる音響波形劣化の原因の特定	2024.6.14

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

誤植のお詫びと訂正

201号受賞欄の受賞名と授与機関名に誤りがありました。申し訳ございませんでした。下記に、再掲させていただきます。

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門 岩本研究室	修士課程1年 原田 直	Photonic Device Workshop 2023 優秀学生ポスターアワード (Best Student Poster Award) PDW 2023 Organizing Committees	Design of an optical coupler between a wire waveguide and a topological slowlight waveguide based on the covariance matrix adaptation evolution strategy	2023.12.7

受賞のこぼれ

情報・エレクトロニクス系部門
合田研究室 博士課程3年
高田 実佳

この度は、第16回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラムにおきまして学生プレゼンテーション賞を賜りました。

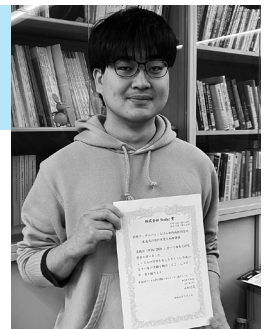
本論文では、索引構造に付加情報を埋込むことによって高速に近似問合せを実行する方式を既存関係データベースシステムで実装し評価致しました。

本受賞に際しまして、日頃よりご指導頂いております合田和生教授をはじめ、研究活動を支えて頂いてくださる研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



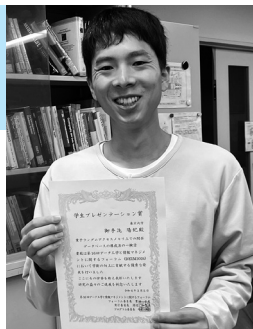
情報・エレクトロニクス系部門
合田研究室 博士課程1年
木村 元紀

この度は、第16回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2024)においてスポンサーである株式会社Scalar様から株式会社Scalar賞をいただき、大変光栄に存じます。本研究は複数の問合せ処理を動的に統合することで既存のデータベースシステムが到達不可能な領域まで実行を効率化することを目指したものであり、その初期の成果を発表させていただきました。受賞に際しまして、本研究のご指導を賜りました合田和生教授をはじめ、研究室の方々のご助言とサポートに厚く御礼申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門
合田研究室 修士課程1年
御手洗 陽紀

第16回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラムにて、学生プレゼンテーション賞を頂戴しました。合田和生教授をはじめとする研究室の皆様のサポートに、深く感謝申し上げます。本発表では、量子ランダムアクセスメモリ上での関係データベースの構築法に関して報告を行いました。今回の受賞を励みに、より一層研究に没頭し、量子状態にエンコードされたデータに対する関係代数の演算の実装法について検討を進めて参ります。



情報・エレクトロニクス系部門
吉永研究室 博士課程3年
葛 侑磨

この度、言語処理学会第30回年次大会におきまして、委員特別賞を賜わり、深く光栄に思います。本研究では、多様な観点で行われる雑談対話システムの評価において、適切な評価の解釈に必要な評価観点の独立性に着目して分析・議論しました。博士課程の締めくくりとして、このような名誉ある賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。本受賞は、長年ご指導いただきました吉永直樹准教授をはじめ、研究室の皆様のご助言とご支援の賜物であると深く感謝しております。

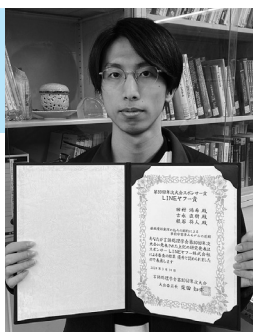


A W A R D S

情報・エレクトロニクス系部門
吉永研究室 修士課程2年
田村 鴻希

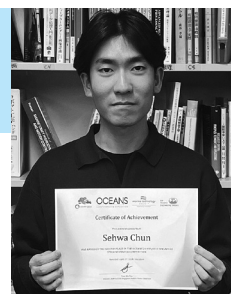
この度、3月に神戸で開催された第30回言語処理学会年次大会にて、スポンサー賞としてLINEヤフー賞を頂きました。当発表の研究では、事前学習済み言語モデルの語彙埋め込み層のパラメタに着目し、低頻度語彙の埋め込みを高頻度語彙による近似縮約で代替することでパラメタ量を削減しました。

共著者の吉永直樹准教授、根石将人さんをはじめ、日頃から議論し、助言をくださる研究室の皆様へ心から感謝を申し上げます。



機械・生体系部門
巻研究室 博士課程2年
千 歳和

OCEANS2024 MTS/IEEE Singapore Student Poster Competitionにおいて、Second Place Awardを頂きました。自律型海中ロボット (AUV) による洋上風力発電所の係留策の追従および点検手法を提案しました。巻俊宏准教授をはじめ、開発および実験にご協力いただいた皆様のご尽力とご指導により成し得た受賞であり、心より感謝申し上げます。



物質・環境系部門
南研究室 博士課程2年
大代 晃平

この度、日本化学会第104春季年会 (2024) 学生講演賞にて優秀学生講演賞を受賞いたしました。本発表では、新規塗布法を用いて作製した導電性金属有機構造体薄膜ガスセンサとパターン認識技術を組み合わせて、アミンガスの判別分析を達成した内容で発表いたしました。本受賞に際しまして、日頃ご指導頂いている南豪准教授をはじめ、研究室の皆様へ心より御礼申し上げます。



基礎系部門
町田研究室 修士課程2年
川崎 盛矢

2023年度修士論文発表において、マテリアル工学優秀修士論文賞を受賞しました。本研究では、二次元半導体である遷移金属ダイカルコゲナイド (TMD) の価電子帯Γ点間における共鳴トンネル効果を系統的に調査し、多層TMDを用いた負性微分抵抗を実証したり、ヘテロ二層TMDのバンド構造形成メカニズムを解明したりしました。これはTMDの物性解明やデバイス応用に強く貢献する成果です。町田友樹教授、守谷頼特准教授、博士課程3年木下圭氏をはじめ、お力添え頂いた全ての皆様へ深く感謝申し上げます。



人間・社会系部門
竹内 (渉) 研究室 博士課程2年
内藤 千尋

この度はInternational Symposium on Remote Sensing (ISRS) 2024において、Excellent Student Paper Awardを受賞することができました。日頃ご指導いただいている竹内渉教授に深く感謝申し上げます。本研究では人工衛星データを利用し、マレーシアにおける降雨等の環境中の水分データと植生の活性データとの関係性を分析し、気候変動による植物の水ストレスの影響度合いを調査しました。今回の受賞を励みに今後も研究活動に精進し、環境と社会の課題に取り組んでいきたいと思っております。



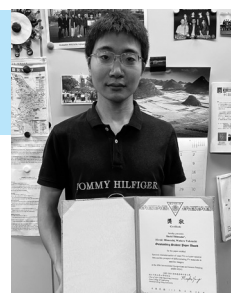
機械・生体系部門
松永研究室 博士課程3年
中野 静香

この度は、東京大学工学系研究科バイオエンジニアリング専攻長賞を受賞いたしました。博士課程では、三次元空間の物理的な環境を制御した足場材料を用いたオリゴデンドロサイト前駆細胞の機能評価の研究を行いました。本受賞に際しまして、ご指導を賜りました松永行子教授をはじめとし、研究活動を支えてくださった皆様へ心より感謝申し上げます。



人間・社会系部門
竹内 (渉) 研究室 博士課程3年
寫田 将貴

この度はInternational Symposium on Remote Sensing (ISRS) 2024においてOutstanding Student Paper Awardを賜り、大変幸甚に存じます。本研究ではハイパースペクトルセンサのデータを利用し、異なる種類の太陽光パネルの相互分離可能性について分析を行いました。今回の受賞に際して、日頃よりご指導いただいている竹内渉教授をはじめ、関係者の皆様方に篤くお礼申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門
吉永研究室 博士課程1年
趙 信

この度は第259回自然言語処理研究発表会の若手奨励賞を選んでいただき、誠にありがとうございます。本論文では、プロンプトによる言語モデルが有する知識の評価にあたり、より多様なプロンプトを持つ評価データセットを提案し、正確かつ公平な評価ベンチマークを提案しました。今回の受賞を励みに、今後も言語モデルの知識評価と自然言語処理研究を精一杯楽しみつつ精進して参ります。



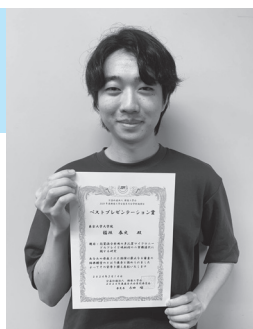
情報・エレクトロニクス系部門
野村研究室 博士課程3年
SHI Hongyuan

I am honored to share the results of my research with all the participants of the 8th Phonon Engineering Workshop. The award from the committee members represents the approval to my year-long research efforts, motivating me to work even harder. I sincerely appreciate the invaluable support from my professor and all lab members. Additionally, I would like to extend my heartfelt thanks to all organizers and their great contribution to this event.



AWARDS

機械・生体系部門
金（範）研究室 修士課程2年
稲垣 泰史



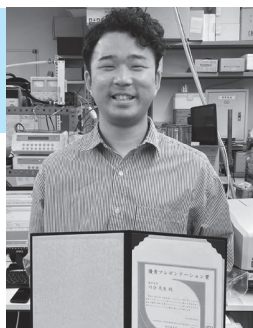
2024年度 精密工学会春季大会学術講演会におきまして、ベストプレゼンテーション賞を受賞し、大変光栄に存じます。本研究では、間質液を採取するデバイスとして、吸収材とマイクロニードルアレイが二重構造となった一体型パッチを提案し、パッチの作製・評価を行いました。本受賞に際しまして、日頃よりご指導頂いている金範俊教授、朴鍾漢助教をはじめとする、研究活動を支援してくださる研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。

人間・社会系部門
桑野研究室 博士課程2年
Naqi Ali



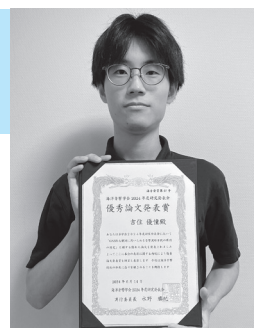
I am deeply honored to receive the International Conference Young Researcher Best Paper Award from the Japan Geotechnical Society (JGS). I extend my heartfelt gratitude to the JGS for this recognition. Special thanks to Kuwano-sensei and Otsubo-sensei for their invaluable guidance and support throughout my research journey. Their expert mentorship and unwavering encouragement were instrumental in achieving this recognition. I am profoundly grateful for the opportunities and insights provided, which have significantly shaped my academic growth. This award is a testament to the dedication and efforts of everyone involved. Thank you for believing in my potential.

機械・生体系部門
白樫研究室 博士課程3年
川合 晃生



この度は、第61回日本伝熱シンポジウムにおいて優秀プレゼンテーション賞を受賞いたしましたこと、大変光栄に存じます。本発表では、短波長赤外顕微分光 (SWIR) によって氷点下における水溶液中の水分子の水素結合エネルギーや回転緩和時間を測定した結果を報告いたしました。受賞にあたり、ご指導いただきました白樫了教授、松浦弘明助教をはじめ、研究室の皆様には心より感謝申し上げます。

機械・生体系部門
横田研究室 修士課程2年
吉住 優憧



この度海洋音響学会 2024年度研究発表会にて優秀論文発表賞を受賞いたしました。本研究では、海底地殻変動観測に用いられる音響信号波形の劣化現象について、観測機器の電気回路や劣化した音響信号波の再現を通して波形の劣化原因とそのメカニズムの特定を行った研究内容を発表いたしました。本受賞に際しまして、日頃よりご指導頂いている横田裕輔准教授をはじめ関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。

SNAP SHOTS

駒II音楽祭 2024年度 第1回「人智を超える歌唱」を開催

5月17日（金）19時より本所S棟プレゼンテーションルームにて、本所および本学先端科学技術研究センターの共催にて、駒II音楽祭2024年度第1回「人智を超える歌唱」が開催されました。藤原歌劇団 折江 忠道 総監督による進行のもと、日本を代表するトップオペラ歌手のひとりである上江 隼人 氏によるバリトン、ならびにゲスト光岡 暁恵 氏による美しいソプラノの歌唱が、ピアニスト河原 忠之 氏、ヴァイオリニスト高瀬 真由子 氏の演奏とともに披露されました。

当日は、本所 年吉 洋 所長をはじめ学生から教職員まで多くの参加者が来場し、至近距離にて圧巻の歌唱とトークを堪能しました。



圧巻の歌唱と演奏の様子



折江総監督による解説

■常務委員会および各種委員会委員長一覧

令和6年度常務委員会および各委員会委員長は下記のとおりです。

令和6年度常務委員会

委員 令和6年4月1日改選（任期1年）

所 属	氏 名
議 長	年吉 洋
基礎系	福谷 克之
〃	清田 隆
機械・生体系	北澤 大輔
〃	白樫 了
情報・エレクトロニクス系	松浦 幹太
〃	佐藤 洋一
物質・環境系	井上 純哉
〃	砂田 祐輔
人間・社会系	今井公太郎
〃	桑野 玲子

令和6年度各種委員会委員長

役 職	氏 名
企画運営室長	竹内 渉
リサーチ・マネジメント・オフィス室長	野村 政宏
次世代育成オフィス室長	大島 まり
広報室長	佐藤 洋一
国際・産学連携室長	岡部 洋二
社会連携・史料室長	野村 政宏
特別研究審議委員長	平本 俊郎
キャンパス公開実行委員長	佐藤 洋一
キャンパス・施設委員長	大口 敬
キャンパス・施設部会長	大岡 龍三
スペース管理専門部会長	小倉 賢
施設管理専門部会長	大岡 龍三
実験施設運営管理専門部会長	小倉 賢
クリーンルーム設備管理運営分科会主査	岩本 敏
水槽設備管理分科会主査	林 昌奎
次世代モビリティ研究設備管理分科会主査	須田 義大
振動台及び静的載荷装置等関連設備管理分科会主査	川口 健一
駒場分析コア分科会主査	溝口 照康
安全管理委員長	年吉 洋
防災・安全部会長	工藤 一秋
防災専門部会長	目黒 公郎
BCM推進ワーキンググループ長	目黒 公郎
環境安全管理専門部会長	工藤 一秋
環境安全管理室長	工藤 一秋
バイオサイエンス安全専門部会長	金 範竣
放射線安全専門部会長	枝川 圭一
遺伝子組換え生物等安全委員長	金 範竣
動物実験委員長	金 範竣
研究用微生物委員長	金 範竣
ユーティリティー委員長	溝口 照康
情報倫理審査会主査	高橋 琢二
大規模実験高度解析推進基盤運営会議委員長	北澤 大輔
価値創造デザイン推進基盤運営会議委員長	今井公太郎
情報委員長	豊田 正史
データベース部会長	山崎 大
情報セキュリティ部会長	新野 俊樹
利益相反アドバイザー機関委員長	町田 友樹
知的財産室長	白樫 了
厚生健康委員長	河野 崇
技術職員等研修委員長	半場 藤弘
予算委員長	平本 俊郎
教育・学務委員長	福谷 克之
技術部連絡会議長	年吉 洋
レビュー制度委員長	酒井 啓司

THE PORTUGAL JAPAN

Hermenegildo Solheiro

Project Researcher, Keisuke Toyoda Lab.
Department of Human and Social Systems

As an architect, the influence of Japanese architecture, both ancient and contemporary, cannot be escaped. But my admiration for Japan began way before architecture school and continues to this day.

Overall, I have always admired Tokyo, the complexity, the efficiency, the character, as well as the Japanese language, which shares this fine balance of complexity, simplicity and hybridization.

So I decided to study Japanese and move to Tokyo. With a fundamental passion for design, a fascination for cities, and an unsettling curiosity for technology, I learned from my professional experience in the Portuguese government and developed a research plan integrating design, law and computer science.

The honorable support of the MEXT scholarship opened the door for me to come to Japan. At that point, I was impressed by the Institute of Industrial Science, an institution where academia and civil society interconnect, public and private interwine, and fine theoretical development allies with relentless practical application. A lively ecosystem where all dualities seemed dynamically appeased.

So it was with great honor and a pinch of disbelief that I had Professor Imai Kotaro trusting my research plan from the get go, eventually allowing me to join the University of Tokyo and develop my research in the frame of the Phd program at IMAI Lab.

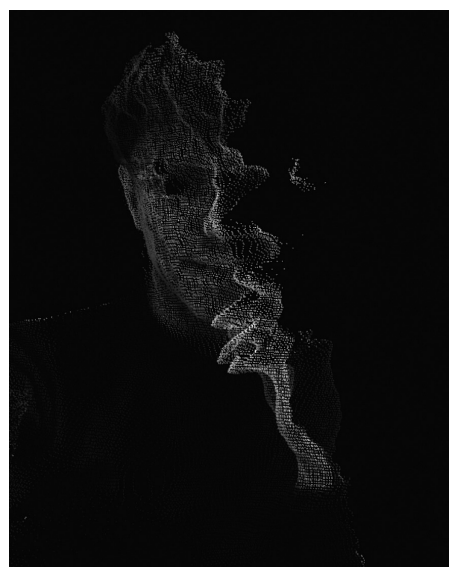
In my PhD thesis titled, '3D simulation and geometric assessment of the effects of law and regulations in the urban fabric', I developed a legal expert system that infers the application of urbanistic and architectural rules to individual parcels in the urban fabric represented as GIS data and produces a visual simulation. This allows us to understand and pinpoint both the effects of individual rules, and the combined effects of regulations on the urban fabric. Specifically, it allowed us to demonstrate the legal origin of the phenomenon of parcel amalgamation that has been altering the character of central areas in Tokyo and to gauge its varying intensity, enabling us to test and propose legal alternatives.

Now, still within the Interspace Research Center, and with the incredible opportunity to work in Professor Toyoda Keisuke's Common Ground Research Lab, my research took a turn back to the human scale and the direct relationship between the human body and space, this time mediated by sensor data, delving into how AI can make sense out of it and add to an improved, extended spatial experience.

I look forward to continuing to develop my work within this multicultural, cross-disciplinary, interspatial ecosystem.



Imai Honma Lab visit to Seoul, Korea



self-uploading to the Common Ground



Activities of RNUS in Thailand

Kato & W. Takeuchi lab. Dr. Bhattacharya Yasmin,
W. Takeuchi lab. Asst. Prof. KhinMyatKyaw

Since its foundation in 2002, The Regional Network office for Urban Safety (RNUS) has focused on promoting the development of a safer urban environment in the Southeast and South Asia region. Currently, it functions through the cooperation between OHOW (under supervision of Prof. Wataru Takeuchi) and School of Engineering and Technology, Asian Institute of Technology (SET-AIT), and continues to drive research concerning urban safety with renewed focus on applications of advanced and local applicable technologies, and with a wider, more integrative understanding of “urban safety”.

Some notable research activities of RNUS under OHOW include: 1) Monitoring of Alternate Wetting and Drying (AWD) in rice paddy field in Thailand with remote sensing to mitigate CH₄ emissions; 2) Application of advanced remote sensing techniques in structural health monitoring of linear infrastructures such as roads, railways and bridges; 3) Tsunami mitigation planning for vulnerable coastal communities; and 4) Understanding the dynamics of post-disaster recovery. Research activities on these topics extend across various countries in the Asian and Oceanic regions, including Thailand, Bangladesh, Myanmar, Japan, and New Zealand. Within these regions, RNUS has also worked on strengthening its ties with

the local counterparts such as the Royal Irrigation Agriculture Department (RID) and The Regional Integrated Multi-Hazard Early Warning System (RIMES) in Thailand for application-oriented studies.

Another new initiative has also begun since 2024 to further RNUS’s research outreach to AIT university students with the ‘RNUS Seminar Series’ where quarterly seminar events are held at AIT to showcase work of IIS researchers affiliated with RNUS and other invited guest speakers. Two seminars have already been organized with high participation rate and positive feedback from the students. This is conducted in addition to the annual ‘International Joint Student Seminar on OHOW’ where students from Japan and other Asian Countries, not limited to UTokyo and AIT, have an opportunity to learn beyond the barriers of their disciplines. All of these events are aimed to foster partnerships and collaborations aimed at addressing complex urban safety challenges.

Looking ahead, RNUS remains committed to advancing the frontiers of urban safety research through continued innovation, collaboration, and knowledge exchange between Institute of Industrial Science (IIS), the University of Tokyo, and AIT.

RNUS HP: <https://rnus.ait.ac.th/>

RNUS: IIS regional office in Thailand



student seminar at AIT, 2023.06.28



Set up AWD at RID rice paddy, 2024.03



RNUS staff: from left Dr. Bhattacharya Yasmin, Ms. Metta Masuttitham, Prof. Pennung Warnitchai, Asst. Prof. Khin Myat Kyaw

生研の実験場としての建築保存

人間・社会系部門 准教授 林 憲吾

私はいま、一軒の住宅の保存活用に取り組んでいます。1955年に竣工した、かつては歯科医院でもあった、見るからにヘンな円形のコンクリートブロック造住宅です。通常、建築史を専門とする私たちは、誰かが所有している歴史的な建物を「これは大事だ」と応援したり、協力したり、時には声を荒げたりしながら保存活動に邁進します。しかし、この取り壊されかけていた円形住宅は、いまは他ならぬ私自身が所有者であり、自らが当事者となった保存活用でもあります。

はじめて足を踏み入れたのは3年前。円い形状や傘のような小屋組もさることながら、使用されている材料に建築史家の眼は行きました。コンクリートブロック、鋼管、合板など終戦直後はなかなか自由に使えなかった工業製品をふんだんに使っていたからです。特にブロックは、戦後復興期が終わりを迎える1950年代に普及をはじめたので、まさにこの住宅は50年代という時代感を身にまとった建物なのです。そんな建物との偶然の出会いに、建築史家の使命感もやや手伝って、これを自ら保存活用することに決めました。無名であったこの建物の歴史を調べ上げて、現在は川崎市の地域文化財に登録しています。

とはいえ、このままでは建築史のわかる人間が単独でおこなう平凡な保存でしょう。生研にいるのだから、もっと異なる専門家を巻き込んで、様々な保存・継承を実験するべきではないか、そう考えました。

その一つが、本所の酒井 雄也 准教授らと取り組んでいる再生コンクリートブロックづくりです。敷地には、取り壊す必要

のあるコンクリートブロックの擁壁があり、壊された後の瓦礫をじっと見つめていると、酒井先生の顔が脳裏をよぎりました。コンクリートの瓦礫を粉末にして圧縮成形して再生する。そんな酒井先生の研究を応用して、この瓦礫をコンクリートブロックに再生し、円形住宅を補強できないかと思い立ったからです。自らの敷地から出た瓦礫で自らを補強する。それ自体、環境の時代に適しています。壊された擁壁にしても変形は変わるけれど、ある意味で保存されたといえるでしょう。とはいえ、言うは易く行うは難し。本所の腰原 幹雄 教授の助けも借りて、実現に向け、悪戦苦闘しています。

他にも、本所の菊本 英紀 准教授との建物の形状を活かした窓づくりや、川口 健一 教授との可動式膜天井、都市林業家の湧口 善之さんとの庭木の継承など、実験的試みはいくつかあり、詳細は割愛しますが、その全体像は下図のとおりです。

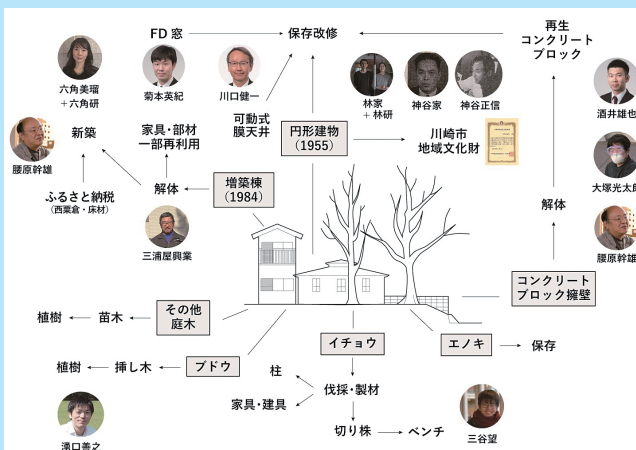
こうした他の専門家との共同保存を、私は「アンサンブル・プリザベーション」と呼んでいます。なぜアンサンブルが必要か。その理由は、歴史以外の分野の人には、保存はまだ過去の重荷や制約だと思うからです。それを打開するには、様々な専門家が能力を遺憾なく発揮して“ワクワク”しながら保存活用に関与できる場づくりが大切です。ストック活用が重視される社会で、建物の保存活用は今後ますます要望されますが、保守的になりすぎず、より身近で創造的なものにしていきたいと思っています。



旧神谷歯科の外観と内観（撮影：浅川敏）



敷地から出た瓦礫とブロックの試作



旧神谷歯科プロジェクトの全体像と関係者（灰色枠は敷地に元々あったものを示す）

編集後記

生研ニュースはこんなにボリューム満ちたのでしょうか？キャンパス公開号ということもありますが、生研ニュースのページが最近徐々に増えてきている印象があります。研究のアクティビティが高いことは大変良いことですし、積極的な広報も功を奏しているかもしれません。ただ、生研ニュースというアーカイブ形式にとっては大変です。レイアウトを工

夫したり、デザインを良くしないと、分厚すぎて今後あまり読んでもらえなくなるかもしれません。広報室・広報チームの良いところは、こうした状況の変化に敏感に反応して、フットワーク軽く方法を見直すことができる点だと思います。今後も変わり続ける広報室・広報チームであってほしいと願っています。

（今井 公太郎）

■東京大学 生産技術研究所 広報室
〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1
(03) 5452-6017 内線 56018、56864

編集スタッフ

佐藤 洋一・林 憲吾・松山 桃世・古川 亮
山川 雄司・菅野 裕介・大内 隆成・今井公太郎
楠井 美緒・岡田麻記子・山田 雅之・松田さつき
米山 浩・木村真貴子

E-mail: iis-news@iis.u-tokyo.ac.jp

生研ホームページ

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>

生研ニュースはweb上でもご覧

いただけます

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/publication/seiken_news/

